

〈論考〉

## 街頭唱題行の意義に関する研究

吉村 英敏

序論

### 第一節 研究の背景

平成二十三年三月十一日、東日本大震災という未曾有の大災害が発生した。テレビには津波や火災などの信じられないような光景が映り、死者は確認されているだけでも一万五千人を超えた。この災害に際し、全国各地からの人々によって東北地方でボランティア活動や奉仕活動が行われた。それは僧侶のような宗教者も例外ではなく、志のある者が実際に現地を訪れ、炊き出しなどのボランティア活動や亡くなった方への供養のための読経・法要などがなされた。

このような報道に接し、まず気になったのが、こうした被災地での宗教者の活動は、被災された地域の住民が如何に捉えられているのかという問題である。渡邊太氏が平成十二年三月に阪神大震災で被災された地域住民を対象に実施したアンケート調査「復興と宗教」質問紙調査（有効回答…三一七件）によると、住民が宗教者の

## 宗教の活動に対する評価(%)

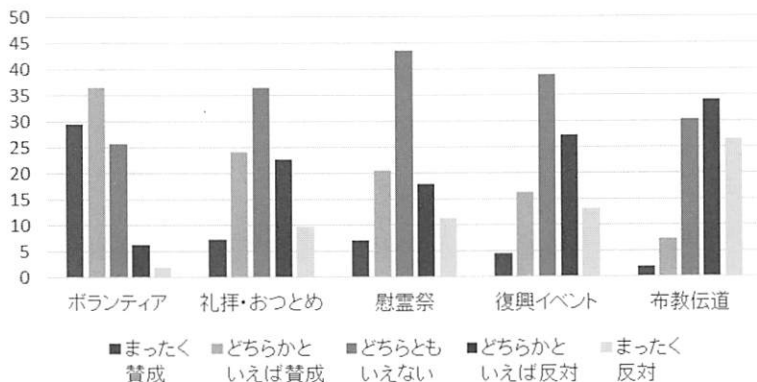


図1 宗教の活動に対する評価

活動で最も支持している活動は「ボランティア活動」であり、次いで「礼拝・おつとめ」、「慰霊祭」、「復興イベント」、そして「布教伝道」となっている(図1)。この結果を見れば、被災地において宗教者に求められているのはボランティア活動であり、布教伝道活動はあまり重視されていない、という結論になりえよう。

しかしながら、果たして宗教者が地域に出て活動する上で最優先すべきは本当にボランティア活動のような奉仕活動のみなのだろうか。三宅敬誠著『寺院の社会福祉』では、

世間の話題に追随して、世間で話題になっている社会福祉活動を寺院でもすること、それが寺院の社会福祉活動であると考えている傾向にあった。このような活動を実施することが可能な寺院が、それをすることは、何も悪い事ではない。<sup>(2)</sup>

としながらも、このような活動を寺院の社会福祉活動と捉えているのであれば、それは社会福祉についての浅薄な理解であるとしている。これは、仏教寺院が地域に出て公益性のある活動ができる余地を認めながらも、世間に追随した奉仕活

動が寺院の持つ社会福祉性ではないということを示唆していると見えるだろう。また、洗健著「宗教と公益」では、

「宗教の公益」というのは、一見すると反社会的に見えるものでも、実際に違法行為をしていなければ、人類に貢献する可能性があるものとして、その宗教の存在そのものを公益として認定することが必要です。<sup>(3)</sup>

と述べており、続けて「自らの信じる『人間の生き方』、その価値を人びとに提示すること自体が、宗教の公益性（人類史への貢献性）なのだ」と述べていることから、宗教者の信仰に基づいた活動、すなわち修行や勤行そのものが公益的であるという自信が僧侶にも必要であるということを示唆した内容といえる。

同時に、前述の阪神淡路大震災をケーススタディとしたアンケートにおいて、なぜ礼拝・おつとめ、慰霊祭、布教伝道といった宗教者として本来的な活動が評価されていないのかという点についても疑問が生じた。同調査によると、「慰霊祭は必要か」という質問に対して肯定的な回答が多数派を占める一方、「宗教でなければ慰霊はできないと思いますか」という問いに対しては、否定的な回答が多数を占めていた（図2、3）。要するに、震災で亡くなられた方々の慰霊をすることはとても大切だと認識していながらも、宗教でなくても慰霊は可能だと考えている人が多いということがこの調査結果では示されているのである。この結果に対して筆者は、無宗教でも慰霊ができるという理論が人々の中にあるのではなく、宗教によってしか慰霊ができないということを僧侶が人々に十分に伝えられていない点に問題があるのではないかと考えた。

宗教者、とりわけ仏教僧侶が多くの殉難横死の犠牲者を出した災害と向き合うとき、まず為すべきことは亡くなられた方々への供養であり、今を生きる人々の心に救い・安心を与えることではないだろうか。法華宗（以下、当宗と記す）においても被災地に赴き、志のある僧侶が思いを持って街頭唱題行を行っている。こうしたことか

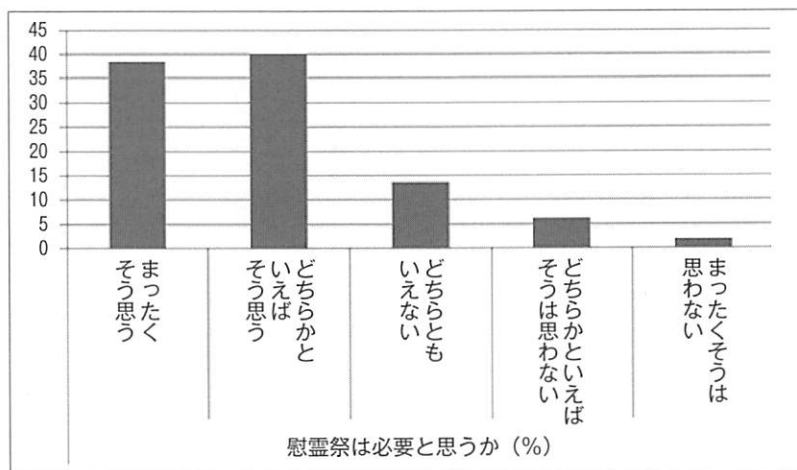


図2 慰霊祭は必要と思うか

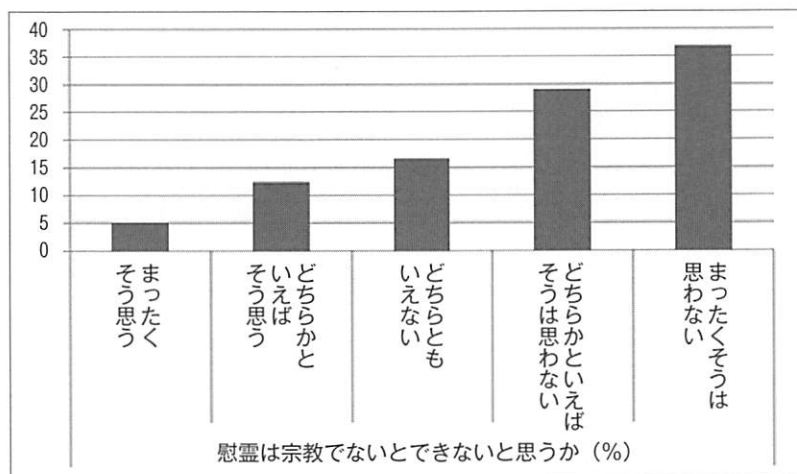


図3 慰霊は宗教でないとできないと思うか

ら筆者は、特定の土地に赴いて街頭唱題行を修行させて頂くことによつてどのような意義があり、また街頭唱題行がどのように地域社会に認知され、住民の心理および行動に影響を及ぼすのかについて、関心を持つようになった。

## 第二節 研究の目的

前節で述べた背景や問題意識の下で、今回の研究の目的を次のように設定した。

街頭唱題行の社会的意義を地域住民の立場から客観的に評価した上で、当宗における街頭唱題行の意義を教員の見地からも考察し、今後当宗の僧侶が檀信徒もしくは地域住民との関係を築く上での一助とすること。

本研究では、この前述の目的を達成するために、以下の三つの小目標を設定する。

- (イ) 第一章、第二章では定例的に街頭唱題行を行っている地域を対象地とし、地域住民へのアンケートを行い、街頭唱題行がどのように認知され、街頭唱題行によつて地域住民の心によつてどのような影響を与えているかを分析し明らかにすること。
- (ロ) 第三章では、当宗における街頭唱題行の功德について、開法下種という観点からその教学的意義を明らかにすること。
- (ハ) 上記の二つを踏まえ、当宗における街頭唱題行がどのような社会的意義を持つかを明らかにし、今後当宗の僧侶が地域に出て活動を行う上での一助とすること。

## 第一章 街頭唱題行に関するアンケート調査

### 第一節 調査の目的および調査対象地の紹介

#### 第一項 調査の目的

今回の研究では、まず街頭唱題行について地域住民からどのように認知・評価されているかをアンケート調査し、その結果を踏まえた上で街頭唱題行がもたらす社会的意義や当宗における街頭唱題行の教学的な位置づけを考察していく。また、街頭唱題行に関係する項目だけでなく、ライフスタイルや近隣の寺の活動をどのように認識しているかなども併せて調査し、御題目の信仰や地域愛着に至るまでの意識構造を明らかにしたい。

#### 第二項 調査対象地の紹介

##### (一) 大阪府南河内郡加納地区

大阪府の南河内郡加納地区に、法華寺という本門法華宗の寺院がある。今回は、御住職の庄司日驗上人の御厚意により、法華寺付近の加納地区を研究対象地の一つとして頂ける運びとなった。

法華寺は、永享十一年（一四三九年）に本宗再興弘通の唱導師、日隆聖人（以下、隆師と記す）が開基の仏教寺院である<sup>4</sup>。法華寺の由緒については次の通りである。隆師が五五歳の時、河内の石川郡加納村を訪れたところ、隆師の母方の父、斯波義将の兄弟である斯波義盛と対面した。義盛は隆師の威徳に打たれ、法華経の信仰に入った。また、当時干ばつで苦しんでいた村に隆師が祈祷を続け、携えた杖で山腹を突くと、わき水があふれたと伝

えられている。加納地区には今もなお御霊水が絶えずわき出ており、「笥の水」として、親しまれている<sup>(5)</sup>。なお、加納地区は前述の歴史的経緯により一村皆法華寺の檀信徒である<sup>(6)</sup>。九月の番神法要など、法華寺での法要の際には、加納地区の檀信徒の方々が当番制で御手伝いに来られ、隆師の時代から現在に至るまで、村一体となって法華寺を護ってきたことが伺える。また、毎年二月の下旬に定例的に街頭唱題行を行っており、本門法華宗の青年僧も有志で参加している。加納地区の村を練り歩き、檀信徒の方々にも年間行事の一つとして広く認知されている。

この加納地区を対象とした理由は、左記の通りである。

(イ) 定例的に街頭唱題行を行っており、住民もこの事を広く認知している地域であること。

(ロ) 地域住民が法華宗の檀信徒であること。

(二) 大阪府大阪市東三国・宮原地区

もう一つ、本研究においては加納地区と対照的な地域を選定する必要があった。よって、地域の住民のほとんどが法華宗の信徒ではないと思われる大阪府大阪市の東三国・宮原地区を対象として選定した。東三国一丁目の地域に、本門法華宗の大願寺という仏教寺院がある。大願寺という寺号は、飛鳥時代に推古天皇より賜ったものであり、当時水害が多かった大阪において長柄橋を無事に完成させるために人柱とられた「巖氏」の菩提をとむらうために建立された寺院である<sup>(7)</sup>。江戸時代初期までは臨濟宗の寺であったが、宝永六年（一七〇九年）に両替商である天王寺屋彌右衛門が大願寺のために寄進を行い、宗派も法華宗に改められた<sup>(8)</sup>。

なお、大願寺は本論文の筆者が生まれ育った寺でもある。大願寺では定例的に街頭唱題行を行ってはいないが、今回の研究に先立って、事前に街頭唱題行を複数回実施することで住民に認知して頂き、その後アンケートを

配布するという段取りで調査することとした。

この東三国・宮原地区を対象とした理由は、左記の通りである。

(イ) 地域住民の多くが法華宗の檀信徒ではないと考えられること。

(ロ) 古くから住んでいる住民もいれば最近引越してこられた住民もあり、一般的な都市のライフスタイルに近い地域であること。

以上、南河内郡加納地区と大阪市淀川区東三国・宮原地区の二地域を今回の研究の対象地とし、街頭唱題行の認識に関するアンケートを取ることにする。

## 第二節 街頭唱題行の実施について

加納地区では、毎年二月に定例的に街頭唱題行を行っており、かつ地域の住民は法華寺の檀家であるため、街頭唱題行をほぼ全ての人が認知している状態でアンケートを取ることができた。だが、東三国・宮原地区では定例的に街頭唱題行を行っていないため、実施した上でアンケート調査をする必要があった。実施の概要は後述の通りである。

(一) 時期

平成二十七年十一月から十二月にかけて実施した。

(二) 回数

前述の期間中に、計十回実施した。時間帯はその日によって多少の前後はあったが、仕事を終え帰路につく人

が多い、およそ夕方の六時から七時にかけての時間帯を選んで実施した。

(三) 経路について

東三国一丁目、宮原二丁目、宮原一丁目の地区をおよそ一時間かけて街頭唱題行を実施した。当宗の信徒である住民もあるが、ほとんどが他宗の信徒もしくは無宗教の住民である。主な特徴としては、適度な人通りがあり、かつ一戸建て住宅、マンション、商店が混在しているという点である。十回ともすべて、同じ経路で実施した。

(四) 方法

衣帯は改良衣に折五条、頭に網代笠を被った。手には念珠を持ち、団扇太鼓を鳴らしながら唱題し、当該地区を練り歩いた。歩行者や自転車を通る道を塞がないように心がけ、通話中や取り込み中の人がいた場合はやや音を小さくして歩くようにした。

(五) 結果

東三国・宮原地区の住民はほとんど当宗の信徒ではないと思われるため、街頭唱題行を行っても主だった反応は無く、無関心である人が多かった。時々手を合わせてくださる方がおられたが、ごく一部の方である。また、十二月八日に街頭唱題行を行った際に、道行く住民（大願寺の信徒ではない）にお布施を頂くといい出来事があった。<sup>9)</sup>

### 第三節 住民へのアンケート調査および単純集計

#### 第一項 目的

街頭唱題行をはじめとする当宗の寺院の活動が、住民の地域愛着や安心感に繋がっているという仮説のもと、アンケート調査を行った。この仮説を立てた理由は、左記のような検証目的のためである。

- (イ) 地域の人々が街頭唱題のことをどのように認識し、受け止められているかを検証すること。
- (ロ) 地域に対する安心感や土着意識に対して、当宗の仏教寺院の活動がどのように働きかけているかを検証すること。

#### 第二項 配布方法と部数について

加納地区に関しては、法華寺御住職の庄司日駿上人の御協力を賜り、平成二十七年十一月の中旬に、五一部を加納地区の住民（法華寺の檀信徒の方々）に配布して頂いた。回収率は九割を見込んだ。

東三国・宮原地区には、街頭唱題行を実施した地区の近隣住民を対象に、二一八部配布した。配布方法はポストイング、配布物は「アンケートのご案内」「アンケート回答用紙」「返送用封筒」の三点で、クリア封筒に封入し、中が見える状態で配布した。返送用封筒には予め切手を貼ってあり、送り先（大願寺）も印字しているため、回答用紙を返送用封筒に入れて投函するだけで大願寺に届くようにした。配布した世帯の選定基準は特に設けていないが、できるだけ一戸建て世帯、マンション世帯が同数になるように配ることを心がけた。結果、大きなトラブルになることなく無事に二一八部をポストイングすることができたが、地域の特性上、マンション世帯への配布がやや多い形となった。回収率は二割五分を見込んだ。

### 第三項 アンケートの内容について

アンケートで調査したのは、大別すると以下の三項目に分かれる。なお、アンケートの原本は巻末の「資料」に掲載している。

(一) 地域愛着に関する質問

(二) お寺の活動・街頭唱題行への認識と印象

(三) ライフスタイルに関しての質問

(一) 地域愛着に関する質問

質問群は、左記の通りである。

- 一〇一 今自分が住んでいる地域に対して愛着がある
- 一〇二 この地域は自分にとってかけがえのない存在である
- 一〇三 今後もこの地域に住み続けたいと思っている
- 一〇四 地域のルールやマナーに配慮した生活を送りたい
- 一〇五 地域の人々を信頼している
- 一〇六 地域に住んでいる人との付き合いを大切にしたいと思っている
- 一〇七 住んでいる地域の一員であることが誇らしい
- 一〇八 自治会や小中学校の地縁的な活動に参加している
- 一〇九 地域内に、個人的な楽しみや趣味を共有する友人が多い
- 一〇十 地域内に、挨拶や立ち話をできる人が多くいる

以上、十項目について質問し、「とてもよく当てはまる」から「全く当てはまらない」までの七段階評価で回答する形式とした。

(二) お寺の活動・街頭唱題行への認識と印象

本項目に関しては、当該地域に当宗の信徒が多くいるか否かによって質問する内容を変えた方が良いと判断したため、加納地区と東三国・宮原地区とで質問群が多少異なる。

(イ) 加納地区

二一 一 あなたは法華寺さんの信徒ですか

二一 二 加納地区で街頭唱題行を毎年二月に行っていることをご存知ですか

二一 三 どのぐらいの頻度で南無妙法蓮華経のお題目を唱えますか(二一 一で信徒であると回答された方のみ)

二一 四 (一) 節分会や除夜の鐘など、街頭唱題行以外で法華寺さんの行事があることを知っていますか

(二) 上記のような法華寺さんの行事に参加されたことはありますか。また、それはどのような行事ですか(二一 一で知っているとは回答された方のみ)

二一 五 (一) 法華寺さんの二月の街頭唱題行を見た、あるいは聞いたことがありますか

(以下、(一)で聞いたことがあるとは回答された方のみ)

(二) 街頭唱題行にはどのような意義があると感じますか(複数回答可)

(三) 街頭唱題行を聞いて、これからも南無妙法蓮華経のお題目を唱えようと思いましたが

(四) 街頭唱題行を聞いて、お題目に対する信仰が深まったと思いませんか

(五) 街頭唱題行は、あなたにとって救いになっていると思いませんか

(六) 街頭唱題行は、あなたに安心感をもたらしていると思いますか

(ロ) 東三国・宮原地区

二一 あなたは大願寺の信徒さんですか

二二 大願寺の夕方五時の鐘の音を聞いたことがありますか

二三 大願寺の朝の勤行の大鼓を聞いたことがありますか

二四 どのぐらいの頻度で南無妙法蓮華経のお題目を唱えますか (二一で信徒であると回答された方のみ)

二五 (一) 除夜の鐘が、毎年大願寺で行われていることを知っていますか

(二) 大願寺での除夜の鐘に参加されたことはありませんか (一)で知っているとは回答された方のみ)

二六 (一) 大願寺の街頭唱題行を見た、あるいは聞いたことがありますか

(以下、(一)で聞いたことがあると回答された方のみ)

(二) 街頭唱題行にはどのような意義があると感じますか (複数回答可)

(三) 街頭唱題行を聞いて、南無妙法蓮華経のお題目を唱えようと思いましたか

(四) 街頭唱題行を聞いて、お題目に対する信仰が深まったと思いませんか

(五) 街頭唱題行は、あなたにとって救いになっていると思いませんか

(六) 街頭唱題行は、あなたに安心感をもたらしていると思いませんか

(三) ライフスタイルに関しての質問

質問群は、左記の通りである。

三一 「性別」をお選びください

三一二 「年齢」をお選びください

三一三 (一) 「家族構成」をお選びください

(二) 「お子様の就学状況」をお選びください (複数回答可。(一)で親子世帯と回答された方のみ)

三一四 「居住歴」をお選びください

以上が、アンケートの質問内容となる。

#### 第四項 アンケート回収率

加納地区については、配布した五一部中、五一部全て回収することができた。回収率は一〇〇パーセントであったため、予想していた九〇パーセントよりも高い回収率を得ることができた。一方、東三国・宮原地区に関しては、五四の回答を得ることができ、回収率は二四・七七パーセントであった。目標にしていた二五パーセントにはやや届かなかったが、ほぼ目標通りの回収率を得ることができた。両者の回答数がそれぞれ五一部、五四部であるため、回答数の上ではほぼ同数の結果が得られたといえよう。

#### 第五項 単純集計

アンケート回答の集計表を作成した。「有効パーセント」とは、回答を得られた数の割合である。

#### (イ) 加納地域

全体での有効回答数は五一であった。質問ごとについて、空欄になっている箇所については無回答として扱っている。単純集計の結果に関しては、後述の通りである。(表1-4)

#### (ロ) 東三国・宮原地域

全体での有効回答数は五四であった(二つも質問に回答していないものに関しては、今回は有効回答として扱って

表1 アンケート単純集計結果(加納地区)

質問	回答	回答数	有効%(%)
Q1-1 今自分が住んでいる地域に対して愛着がある	とてもよく当てはまる	14	27.5
	当てはまる	21	41.2
	少し当てはまる	10	19.6
	どちらでもない	5	9.8
	あまり当てはまらない	1	2.0
	当てはまらない	0	0.0
	全く当てはまらない	0	0.0
	合計	51	100.0
欠損値	無回答	0	
合計		51	
Q1-2 この地域は自分にとってかけがえのない存在である	とてもよく当てはまる	17	33.3
	当てはまる	15	29.4
	少し当てはまる	6	11.8
	どちらでもない	8	15.7
	あまり当てはまらない	4	7.8
	当てはまらない	1	2.0
	全く当てはまらない	0	0.0
	合計	51	100.0
欠損値	無回答	0	
合計		51	
Q1-3 今後もこの地域に住み続けたいと思っている	とてもよく当てはまる	14	28.6
	当てはまる	20	40.8
	少し当てはまる	7	14.3
	どちらでもない	6	12.2
	あまり当てはまらない	1	2.0
	当てはまらない	1	2.0
	全く当てはまらない	0	0.0
	合計	49	100.0
欠損値	無回答	2	
合計		51	
Q1-4 地域のルールやマナーに配慮した生活を送りたい	とてもよく当てはまる	18	36.0
	当てはまる	22	44.0
	少し当てはまる	6	12.0
	どちらでもない	3	6.0
	あまり当てはまらない	1	2.0
	当てはまらない	0	0.0
	全く当てはまらない	0	0.0
	合計	50	100.0
欠損値	無回答	1	
合計		51	
Q1-5 地域の人々を信頼している	とてもよく当てはまる	11	21.6
	当てはまる	20	39.2
	少し当てはまる	11	21.6
	どちらでもない	7	13.7
	あまり当てはまらない	2	3.9
	当てはまらない	0	0.0
	全く当てはまらない	0	0.0
	合計	51	100.0
欠損値	無回答	0	
合計		51	

表2 アンケート単純集計結果(加納地区)

質問	回答	回答数	有効%(%)
Q1-6 地域に住んでいる人との付き合いを大切にしたいと思っている	とてもよく当てはまる	11	21.6
	当てはまる	30	58.8
	少し当てはまる	9	17.6
	どちらでもない	1	2.0
	あまり当てはまらない	0	0.0
	当てはまらない	0	0.0
	全く当てはまらない	0	0.0
	合計	51	100.0
欠損値	無回答	0	
合計		51	
Q1-7 住んでいる地域の一員であることが誇らしい	とてもよく当てはまる	9	18.0
	当てはまる	17	34.0
	少し当てはまる	13	26.0
	どちらでもない	9	18.0
	あまり当てはまらない	1	2.0
	当てはまらない	1	2.0
	全く当てはまらない	0	0.0
	合計	50	100.0
欠損値	無回答	1	
合計		51	
Q1-8 自治会や小中学校の地縁的な活動に参加している	とてもよく当てはまる	9	18.0
	当てはまる	19	38.0
	少し当てはまる	14	28.0
	どちらでもない	5	10.0
	あまり当てはまらない	2	4.0
	当てはまらない	0	0.0
	全く当てはまらない	1	2.0
	合計	50	100.0
欠損値	無回答	1	
合計		51	
Q1-9 地域内に、個人的な楽しみや趣味を共有する友人が多い	とてもよく当てはまる	1	2.0
	当てはまる	14	28.0
	少し当てはまる	12	24.0
	どちらでもない	14	28.0
	あまり当てはまらない	8	16.0
	当てはまらない	1	2.0
	全く当てはまらない	0	0.0
	合計	50	100.0
欠損値	無回答	1	
合計		51	
Q1-10 地域内に、挨拶や立ち話をできる人が多くいる	とてもよく当てはまる	11	21.6
	当てはまる	26	51.0
	少し当てはまる	8	15.7
	どちらでもない	4	7.8
	あまり当てはまらない	2	3.9
	当てはまらない	0	0.0
	全く当てはまらない	0	0.0
	合計	51	100.0
欠損値	無回答	0	
合計		51	

表3 アンケート単純集計結果(加納地区)

質問	回答	回答数	有効%(%)
Q2-1 あなたは法華寺の信徒さんですか	信徒である	51	100.0
	信徒ではない	0	0.0
	合計	51	100.0
欠損値	無回答	0	
合計		51	
Q2-2 加納地区で街頭唱題行を毎年2月に行っていることをご存知ですか	よく知っている	33	64.7
	何となく知っている	12	23.5
	どちらともいえない	1	2.0
	あまり知らない	3	5.9
	全く知らない	2	3.9
	合計	51	100.0
欠損値	無回答	0	
合計		51	
Q2-3 (Q2-1で信徒であると回答された方へ) どのぐらいの頻度で南無妙法蓮華経のお題目を唱えますか	毎日欠かさず唱えている	12	25.0
	ほとんど毎日唱えている	10	20.8
	2~3日のうち一日は唱えている	5	10.4
	一週間に一日は唱えている	1	2.1
	一ヶ月に一日は唱えている	8	16.7
	特別な時でないとならない	11	22.9
	全く唱えない	1	2.1
	合計	48	100.0
欠損値	無回答	3	
合計		51	
Q2-4-1 節分会や除夜の鐘など、街頭唱題行以外で法華寺さんの行事があることを知っていますか	知っている	43	91.5
	知らない	4	8.5
	合計	47	100.0
欠損値	無回答	4	
合計		51	
Q2-4-2 (Q2-4-1で知っているとは回答された方へ) 上記のような法華寺さんの行事に参加されたことはありますか。	よく参加している	24	55.8
	時々参加している	12	27.9
	まれに参加している	3	7.0
	ほとんど参加したことがない	4	9.3
	全く参加したことがない	0	0.0
	合計	43	100.0
欠損値	無回答	8	
合計		51	
Q2-5-1 法華寺さんの2月の街頭唱題行を見た、あるいは聞いたことがありますか	聞いたことがある	41	87.2
	聞いたことはない	6	12.8
	合計	47	100.0
欠損値	無回答	4	
合計		51	
Q2-5-2 (Q2-5-1で聞いたことがあるとは回答された方へ) 街頭唱題行にはどのような意義があると感じますか(複数回答可)	先祖供養のため	31	77.5
	地域の精進への供養のため	13	32.5
	自分たちの成仏のため	5	12.5
	自分たちの修行のため	5	12.5
	日蓮聖人や先哲への敬意表明のため	17	42.5
	それ以外	1	2.5
	回答数	40	100.0
欠損値	無回答	11	
合計		51	

表4 アンケート単純集計結果(加納地区)

質問	回答	回答数	有効率(%)
Q2-5-3 街頭唱題行を聞いて、南無妙法蓮華経のお題目を唱えようと思いましたが	とてもそう思った	17	39.5
	まあそう思った	15	34.9
	どちらともいえない	5	11.6
	あまりそう思わなかった	5	11.6
	全くそう思わなかった	1	2.3
	合計	43	100.0
欠損値	無回答	8	
合計		51	
Q2-5-4 街頭唱題行を聞いて、お題目に対する信仰が深まったと思いますか	とてもそう思った	14	31.8
	まあそう思った	18	40.9
	どちらともいえない	7	15.9
	あまりそう思わなかった	4	9.1
	全くそう思わなかった	1	2.3
	合計	44	100.0
欠損値	無回答	7	
合計		51	
Q2-5-5 街頭唱題行は、あなたにとって救いになっていると思いますか	とてもそう思った	9	20.5
	まあそう思った	17	38.6
	どちらともいえない	15	34.1
	あまりそう思わなかった	2	4.5
	全くそう思わなかった	1	2.3
	合計	44	100.0
欠損値	無回答	7	
合計		51	
Q2-5-6 街頭唱題行は、あなたに安心感をもたらしていると思いますか	とてもそう思った	9	20.5
	まあそう思った	15	34.1
	どちらともいえない	16	36.4
	あまりそう思わなかった	3	6.8
	全くそう思わなかった	1	2.3
	合計	44	100.0
欠損値	無回答	7	
合計		51	
Q3-1 性別をお選びください	男性	21	44.7
	女性	26	55.3
	合計	47	100.0
	欠損値	無回答	4
合計		51	
Q3-2 年齢をお選びください	20代	1	2.3
	30代	0	0.0
	40代	5	11.4
	50代	9	20.5
	60代以上	29	65.9
	合計	44	100.0
欠損値	無回答	7	
合計		51	
Q3-3 家族構成をお選びください	単身世帯	3	6.8
	夫婦世帯	10	22.7
	親子世帯	26	59.1
	その他	4	9.1
	合計	44	100.0
欠損地	無回答	7	
合計		51	
Q3-4 居住歴をお選びください	2年未満	0	0.0
	2～5年	0	0.0
	5～10年	0	0.0
	10～20年	0	0.0
	20～30年	6	13.0
	30年以上	40	87.0
	合計	46	100.0
欠損地	無回答	5	
合計		51	

ない)。加納地区と同じく、質問ごとに空欄になっている箇所は無回答として扱っている。

また、回答の中には「修行頑張ってください」「毎日夕刻に聞こえてくるお寺の鐘の音を楽しみにしています」などのメッセージを添えてくださる回答もあった。一方で、「初めて街頭唱題行を聞いた時、姿を見た時、訳が分からずとても怖い思いをしました。時間的なこともあると思います」といった感想や「アンケートを配るのであれば、事前に告知をしてほしかった」といった意見もあったため、今後の反省としていきたい。

質問ごとの単純集計結果は、後述の通りである。(表5-8)

表5 アンケート単純集計結果（東三国・宮原地区）

質問	回答	回答数	有効%(%)
Q1-1 今自分が住んでいる地域に対して愛着がある	とてもよく当てはまる	20	37.7
	当てはまる	18	34.0
	少し当てはまる	10	18.9
	どちらでもない	4	7.5
	あまり当てはまらない	1	1.9
	当てはまらない	0	0.0
	全く当てはまらない	0	0.0
	合計	53	100.0
欠損値	無回答	1	
合計		54	
Q1-2 この地域は自分にとってかけがえのない存在である	とてもよく当てはまる	17	32.1
	当てはまる	13	24.5
	少し当てはまる	11	20.8
	どちらでもない	8	15.1
	あまり当てはまらない	4	7.5
	当てはまらない	0	0.0
	全く当てはまらない	0	0.0
	合計	53	100.0
欠損値	無回答	1	
合計		54	
Q1-3 今後もこの地域に住み続けたいと思っている	とてもよく当てはまる	18	34.0
	当てはまる	15	28.3
	少し当てはまる	10	18.9
	どちらでもない	6	11.3
	あまり当てはまらない	3	5.7
	当てはまらない	1	1.9
	全く当てはまらない	0	0.0
	合計	53	100.0
欠損値	無回答	1	
合計		54	
Q1-4 地域のルールやマナーに配慮した生活を送りたい	とてもよく当てはまる	24	45.3
	当てはまる	22	41.5
	少し当てはまる	5	9.4
	どちらでもない	2	3.8
	あまり当てはまらない	0	0.0
	当てはまらない	0	0.0
	全く当てはまらない	0	0.0
	合計	53	100.0
欠損値	無回答	1	
合計		54	
Q1-5 地域の人々を信頼している	とてもよく当てはまる	14	26.4
	当てはまる	16	30.2
	少し当てはまる	9	17.0
	どちらでもない	11	20.8
	あまり当てはまらない	3	5.7
	当てはまらない	0	0.0
	全く当てはまらない	0	0.0
	合計	53	100.0
欠損値	無回答	1	
合計		54	

表6 アンケート単純集計結果（東三国・宮原地区）

質問	回答	回答数	有効%(%)
Q1-6 地域に住んでいる人との付き合いを大切にしたいと思っている	とてもよく当てはまる	18	34.0
	当てはまる	13	24.5
	少し当てはまる	15	28.3
	どちらでもない	5	9.4
	あまり当てはまらない	2	3.8
	当てはまらない	0	0.0
	全く当てはまらない	0	0.0
	合計	53	100.0
欠損値	無回答	1	
合計		54	
Q1-7 住んでいる地域の一員であることが誇らしい	とてもよく当てはまる	10	18.9
	当てはまる	11	20.8
	少し当てはまる	8	15.1
	どちらでもない	22	41.5
	あまり当てはまらない	2	3.8
	当てはまらない	0	0.0
	全く当てはまらない	0	0.0
	合計	53	100.0
欠損値	無回答	1	
合計		54	
Q1-8 自治会や小中学校の地縁的な活動に参加している	とてもよく当てはまる	4	7.5
	当てはまる	7	13.2
	少し当てはまる	6	11.3
	どちらでもない	8	15.1
	あまり当てはまらない	8	15.1
	当てはまらない	7	13.2
	全く当てはまらない	13	24.5
	合計	53	100.0
欠損値	無回答	1	
合計		54	
Q1-9 地域内に、個人的な楽しみや趣味を共有する友人が多い	とてもよく当てはまる	5	9.4
	当てはまる	4	7.5
	少し当てはまる	9	17.0
	どちらでもない	6	11.3
	あまり当てはまらない	9	17.0
	当てはまらない	6	11.3
	全く当てはまらない	14	26.4
	合計	53	100.0
欠損値	無回答	1	
合計		54	
Q1-10 地域内に、挨拶や立ち話をできる人が多い	とてもよく当てはまる	7	13.2
	当てはまる	14	26.4
	少し当てはまる	17	32.1
	どちらでもない	2	3.8
	あまり当てはまらない	2	3.8
	当てはまらない	8	15.1
	全く当てはまらない	3	5.7
	合計	53	100.0
欠損値	無回答	1	
合計		54	

表7 アンケート単純集計結果（東三国・宮原地区）

質問	回答	回答数	有効率(%)
Q2-1 あなたは法華寺の信徒さんですか	信徒である	5	9.4
	信徒ではない	48	90.6
	合計	53	100.0
欠損値	無回答	1	
合計		54	
Q2-2 加納地区で街頭唱題行を毎年2月に行っていることをご存知ですか	よく知っている		
	何となく知っている		
	どちらともいえない		
	あまり知らない		
	全く知らない		
	合計		
欠損値	無回答		
合計			
Q2-3 (Q2-1で信徒であると回答された方へ) どのぐらいの頻度で南無妙法蓮華經のお題目を唱えますか	毎日欠かさず唱えている	3	60.0
	ほとんど毎日唱えている	0	0.0
	2-3日のうち一日は唱えている	1	20.0
	一週間に一日は唱えている	0	0.0
	一ヶ月に一日は唱えている	0	0.0
	特別な時でないとい唱えない	0	0.0
	全く唱えない	1	20.0
	合計	5	100.0
欠損値	無回答	49	
合計		54	
Q2-4-1 節分会や除夜の鐘など、街頭唱題行以外で法華寺さんの行事があることを知っていますか	知っている	37	71.2
	知らない	15	28.8
	合計	52	100.0
欠損値	無回答	2	
合計		54	
Q2-4-2 (Q2-4-1で知っていると回答された方へ) 上記のような法華寺さんの行事に参加されたことはありますか。	よく参加している	3	8.1
	時々参加している	4	10.8
	まれに参加している	6	16.2
	ほとんど参加したことがない	5	13.5
	全く参加したことがない	19	51.4
	合計	37	100.0
欠損値	無回答	17	
合計		54	
Q2-5-1 法華寺さんの2月の街頭唱題行を見た、あるいは聞いたことがありますか	聞いたことがある	14	26.9
	聞いたことはない	38	73.1
	合計	52	100.0
欠損値	無回答	2	
合計		54	
Q2-5-2 (Q2-5-1で聞いたことがあると回答された方へ) 街頭唱題行にはどのような意義があると感じますか（複数回答可）	先祖供養のため	4	28.6
	地域の精霊への供養のため	4	28.6
	自分たちの成仏のため	3	21.4
	自分たちの修行のため	5	35.7
	日蓮聖人や先師への報恩謝徳のため	0	0.0
	それ以外	1	7.1
	回答数	14	100.0
欠損値	無回答	40	
合計		54	

表8 アンケート単純集計結果（東三国・宮原地区）

質問	回答	回答数	有効率(%)
Q2-5-3 街頭唱題行を聞いて、南無妙法蓮華經のお題目を唱えようと思いましたが	とてもそう思った	1	7.1
	まあそう思った	0	0.0
	どちらともいえない	8	57.1
	あまりそう思わなかった	1	7.1
	全くそう思わなかった	4	28.6
	合計	14	100.0
欠損値	無回答	40	
合計		54	
Q2-5-4 街頭唱題行を聞いて、お題目に対する信仰が深まったと思いますか	とてもそう思った	0	0.0
	まあそう思った	3	21.4
	どちらともいえない	7	50.0
	あまりそう思わなかった	2	14.3
	全くそう思わなかった	2	14.3
	合計	14	100.0
欠損値	無回答	40	
合計		54	
Q2-5-5 街頭唱題行は、あなたにとって救いになっていると思いますか	とてもそう思った	2	14.3
	まあそう思った	2	14.3
	どちらともいえない	5	35.7
	あまりそう思わなかった	3	21.4
	全くそう思わなかった	2	14.3
	合計	14	100.0
欠損値	無回答	40	
合計		54	
Q2-5-6 街頭唱題行は、あなたに安心感をもたらしていると思いますか	とてもそう思った	2	14.3
	まあそう思った	3	21.4
	どちらともいえない	5	35.7
	あまりそう思わなかった	2	14.3
	全くそう思わなかった	2	14.3
	合計	14	100.0
欠損値	無回答	40	
合計		54	
Q3-1 性別をお選びください	男性	15	28.8
	女性	37	71.2
	合計	52	100.0
	欠損値	無回答	2
合計		54	
Q3-2 年齢をお選びください	20代	1	1.9
	30代	4	7.7
	40代	7	13.5
	50代	14	26.9
	60代以上	26	50.0
	合計	52	100.0
欠損値	無回答	2	
合計		54	
Q3-3 家族構成をお選びください	単身世帯	12	23.1
	夫婦世帯	15	28.8
	親子世帯	23	44.2
	その他	2	3.8
	合計	52	100.0
欠損地	無回答	2	
合計		54	
Q3-4 居住歴をお選びください	2年未満	5	9.6
	2～5年	4	7.7
	5～10年	5	9.6
	10～20年	10	19.2
	20～30年	5	9.6
	30年以上	23	44.2
	合計	52	100.0
欠損地	無回答	2	
合計		54	

## 第二章 調査の分析

本章では、第一章で回収したアンケート回答結果を集計・分析し、街頭唱題行に対する認識と地域愛着との関連性や意識構造を明らかにしていく。<sup>10)</sup>

### 第一節 加納地区と東三国・宮原地区の比較

#### 第一項 ライフスタイル

まず二地域で大きく違いが出たのがライフスタイル、とりわけ質問三―四の「居住歴」である(図4)。加納地区は、その地区に住んでから「三十年以上」の住民が八割以上を占める一方で、東三国・宮原地区は居住歴が浅い住民も多く見受けられるのが特徴である。また、質問二―一である「地域のお寺の信徒であるかどうか」についても、加納地区は一〇〇%だったのに対し、東三国・宮原地区は一〇%に満たない数字であった。これらの結果は、二地域を対照する上で予想通りの違いが出たと言える。一方で、質問三―二「年齢」に関しては、居住歴ほど顕著な差は出なかった(図5)。「年齢」においては顕著な差が出なかったにも関わらず「居住歴」は大きい差が生じたことから、加納地区ではその地域に長く住んでいる世帯の割合が多く、東三国・宮原地区は人口の入れ替わりが多いことが伺える。よって、今後は二地域を比較する上で、左記の点を前提として考えたい。

(イ) 加納地区は回答者の十割が法華寺の信徒であり、居住歴は全員が二十年以上である。

### Q3-4 居住歴の比較

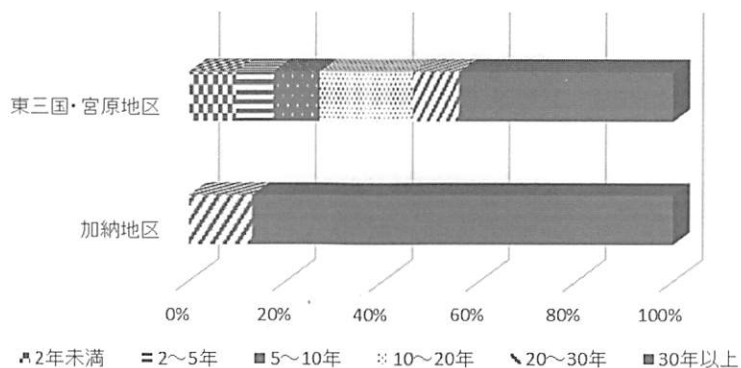


図4 居住歴の比較

### Q3-2 年齢の比較

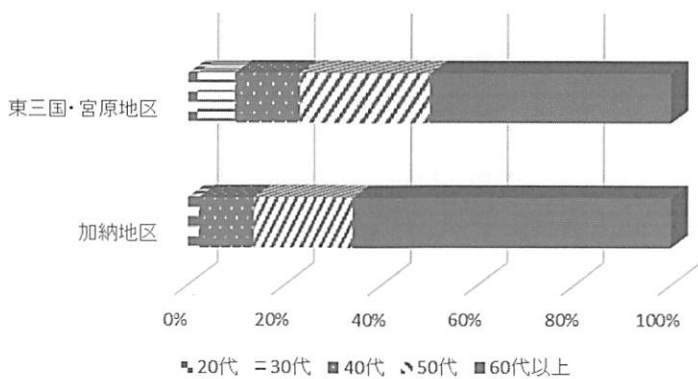


図5 年齢の比較

Q 街頭唱題行を聞いたことがありますか(有効%)

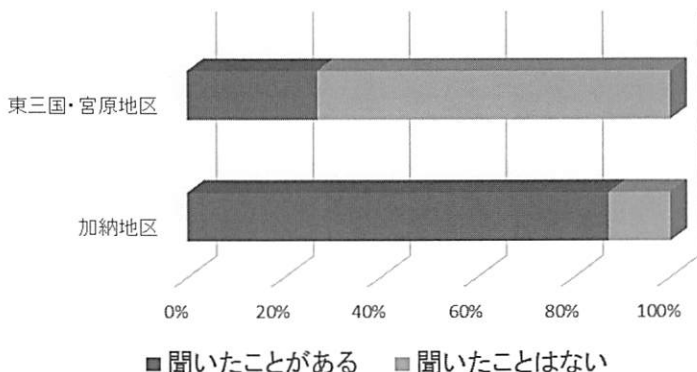


図6 街頭唱題行の認知度

(ロ) 東三国・宮原地区は九割以上が信徒ではなく、居住歴も浅い人から長い人まで散見するのが特徴である。

第二項 街頭唱題行の認知

アンケートの質問第二の「お寺の活動・街頭唱題行への認識と印象」について、加納地区と東三国・宮原地区を比較してみたい。まず、加納地区において「毎年二月に行われている街頭唱題行を見た、あるいは聞いたことがありますか」という質問に対しては、「聞いたことがある」と答えた人が八七・二%を占め、多くの人が法華寺の街頭唱題行を聞いたことがあるということが分かった(図6)。一方、東三国・宮原地区においては、平成二七年の十一月から十二月にかけて実施した街頭唱題行に関して「聞いたことがある」と答えた人が二六・九%と予想よりも認知している人の割合が低かった。よって、加納地区の方が東三国・宮原地区に比べて街頭唱題行を聞いたことがある人の割合はるかに高いことが分かった。このことから、次のことを理由として推察した。

(イ) 法華宗の信徒が多い地域においては、御題目に対する信仰や関心が高いため、街頭唱題行の認知率も高い。

Q 街頭唱題行にはどのような意義があると感じますか  
(複数回答可、有効%)

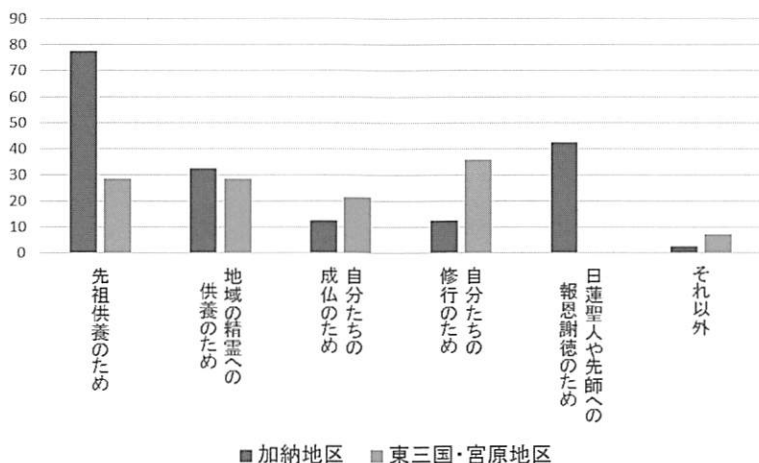


図7 街頭唱題行の意義について

(口) 今回の東三国・宮原地区のように数ヶ月で集中的に街頭唱題行を行ったとしても、加納地区の法華寺のように毎年継続的かつ定期的に実施している街頭唱題行に比べると認識率が低い。

また、街頭唱題行を「聞いたことがある」と回答した人のみを対象とした、「街頭唱題行にはどのような意義があると感じますか(複数回答可)」という質問に関して、単純集計結果を加納地区と東三国・宮原地区とで比較した(図7)。すると、加納地区(全て法華宗の信徒)においては「先祖供養のため」が最も多く七七%、次いで「日蓮聖人や先師への報恩謝徳のため」が四二%であった。一方で、東三国・宮原地区(殆ど信徒ではない)においては「自分たちの修行のため」という回答が最も多く三五%であり、他の選択肢は全て三〇%未満であった。このことから、法華宗の信徒であるか否かによって、街頭唱題行の意義の感じ方に大きく差があることが分かった。特に、加納地区においては唱題の功德が自分たちの先祖や先聖先師へ向か

うという意識が強く伺える一方で、東三国・宮原地区においては街頭唱題行があくまで僧侶の修行の一環であり、自分たちにとってはあまり関係が無いものであると認識している傾向があると推察できる。

次に、街頭唱題行に対しての印象を問う質問、「街頭唱題行を聞いて、南無妙法蓮華經のお題目を唱えようと思いましたが」「街頭唱題行を聞いて、お題目に対する信仰が深まったと思いますか」「街頭唱題行は、あなたにとって救いになっていると思いますか」「街頭唱題行は、あなたに安心感をもたらしていると思いますか」の四つに関して、両地区の単純集計結果を比較した(図8～11)。有効パーセントを加納地区と東三国・宮原地区とで比較した。大きく違いが出たのは、「街頭唱題行を聞いて、南無妙法蓮華經のお題目を唱えようと思いましたか(唱題の意思)」「街頭唱題行を聞いて、お題目に対する信仰が深まったと思いますか(題目の信仰)」の二つである。特に、「御題目を唱えようと思いましたか」という質問に関しては、二地域間で顕著な差が出ていると言えよう。しかしながら、「街頭唱題行は、あなたにとって救いになっていると思いますか」「街頭唱題行は、あなたに安心感をもたらしていると思いますか」の二つに関しては、「とてもそう思った」「まあそう思った」と回答する割合が、前の二つの質問に比べると差が縮まっていることが分かる。東三国・宮原地区は、法華宗の信徒でない人の割合が九割以上であるが、街頭唱題行を自分たちにとって「救い」「安心感」を与えるものであると認識している人が少なからずいることが分かる。

### 第三項 地域愛着

アンケートの質問第一の「地域愛着に関する質問」に関して、まず、回答の「とてもよく当てはまる」を七点、「全く当てはまらない」を一点として七段階の点数に置き換えて票に記入した。それぞれの質問についての平均得点を算出し、グラフにした(図12)。主な特徴としては、一―八「自治会や小中学校の地縁的な活動に参加し

街頭唱題行を聞いて、御題目を唱えようと思ったか(有効%)

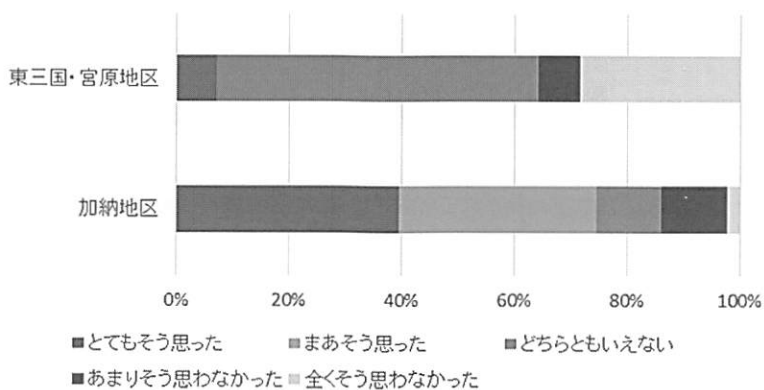


図8 唱題の意思の変化

街頭唱題行を聞いて、御題目に対する信仰が深まったと思うか(有効%)

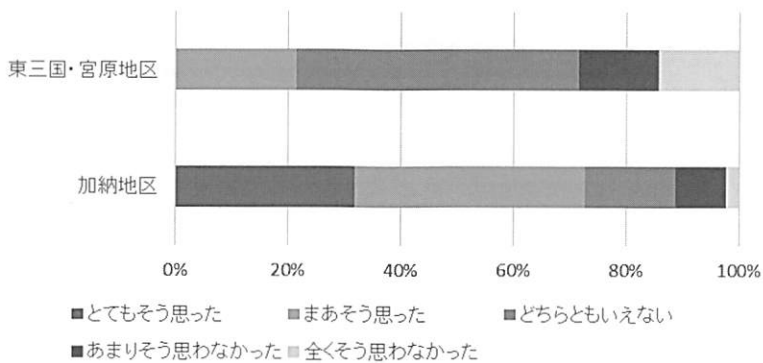


図9 御題目への信仰の変化

街頭唱題行は、あなたにとって  
救いになっていると思うか(有効%)

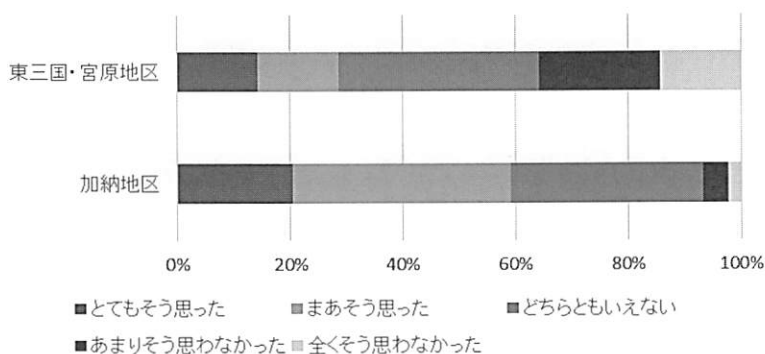


図10 街頭唱題行に対する「救い」

街頭唱題行は、あなたにとって  
安心感をもたらしているか(有効%)

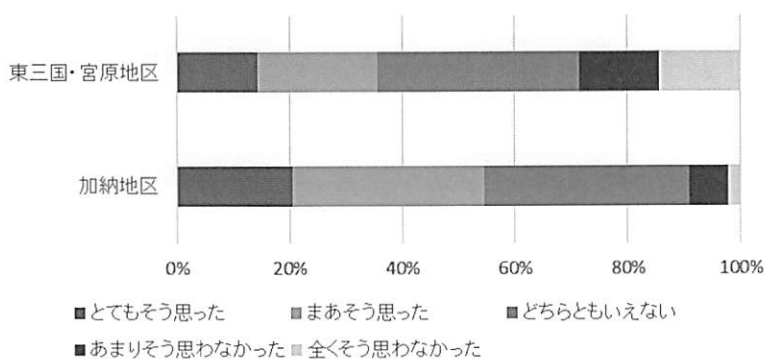


図11 街頭唱題行に対する安心感

## 地域愛着に関する質問の平均値比較

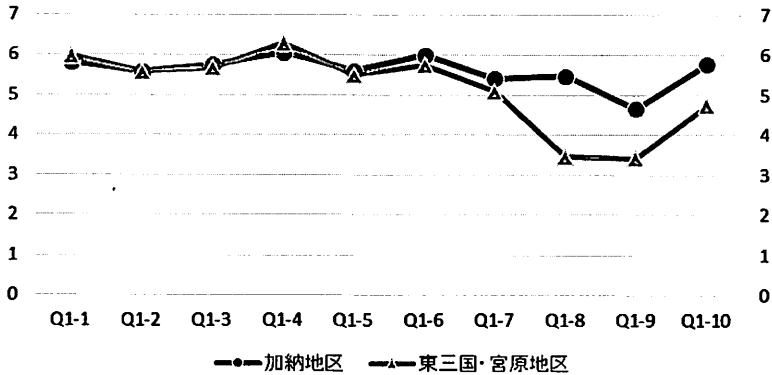


図12 地域愛着の平均値

ている」、一―九「地域内に、個人的な楽しみや趣味を共有する友人が多い」、一―十「地域内に、挨拶や立ち話をできる人が多くいる」といった、地域内での人間関係に関する質問に対して、加納地区の方が東三国・宮原地区に比べて平均値が高かったという点である。このことから、加納地区の方が居住歴の長い人の割合が高いため、地域内での人間関係の構造が充実しているということが伺える。また、他の質問一―一から一―七までに関しては、多少の差はあるものの、総じてほぼ同じ平均値を示したといえる。これらの質問は一―一「今自分が住んでいる地域に対して愛着がある」や一―五「地域の人々を信頼している」など、地域そのものへの愛着や安心感を問う質問群であることから、加納地区も東三国・宮原地区も、地域愛着という観点においては比較的高いということが言える。加納地区においては、一村皆法華寺の檀信徒であることから地域内での交流が密であるため、それが地域愛着に繋がっていることが考えられる。東三国・宮原地区に関しては、地域内での人間関係は加納地区に比べると希薄であるが、一方で交通の便が豊かであることなど、生活する上で便利なのが地域への愛着に繋

表9 地域愛着の因子分析（加納地区・一回目）

「地域愛着に関する質問」についての因子負荷量（加納地区、一回目）

質問	因子1	因子2
Q1-1 今自分が住んでいる地域に対して愛着がある	0.6125	0.6601
Q1-2 この地域は自分にとってかけがえのない存在である	0.5524	0.7159
Q1-3 今後もこの地域に住み続けたいと思っている	0.5178	0.6124
Q1-4 地域のルールやマナーに配慮した生活を送りたい	0.5220	0.0740
Q1-5 地域の人々を信頼している	0.9250	0.1669
Q1-6 地域に住んでいる人との付き合いを大切にしたいと思っている	0.7344	0.3994
Q1-7 住んでいる地域の一員であることが誇らしい	0.7986	0.4493
Q1-8 自治会や小中学校の地縁的な活動に参加している	-0.0135	0.3549
Q1-9 地域内に、個人的な楽しみや趣味を共有する友人が多い	0.2069	0.4934
Q1-10 地域内に、挨拶や立ち話をできる人が多くいる	0.3117	0.6400

表10 地域愛着の因子分析（加納地区・二回目）

「地域愛着に関する質問」についての因子負荷量（加納地区、二回目）

質問	因子A
Q1-1 今自分が住んでいる地域に対して愛着がある	0.8957
Q1-2 この地域は自分にとってかけがえのない存在である	0.8729
Q1-3 今後もこの地域に住み続けたいと思っている	0.8005
Q1-5 地域の人々を信頼している	0.7816
Q1-6 地域に住んでいる人との付き合いを大切にしたいと思っている	0.8103
Q1-7 住んでいる地域の一員であることが誇らしい	0.9233
Q1-10 地域内に、挨拶や立ち話をできる人が多くいる	0.6332

がっていると考えられる。次に、全部で十ある質問のうち、どの質問同士が同じ性質を示すかを調べるため、因子分析<sup>(1)</sup>を行った。なお、因子分析を行うにあたりエクセル統計という統計解析ソフトを用いた<sup>(2)</sup>。質問第一の「地域愛着に関する質問」の十項目について、因子の推定方法は主因子法、因子の回転はバリマックス回転<sup>(3)</sup>を用いて、分析を行った。

(イ) 加納地区

まずは加納地区の回答について分析を行う。エ

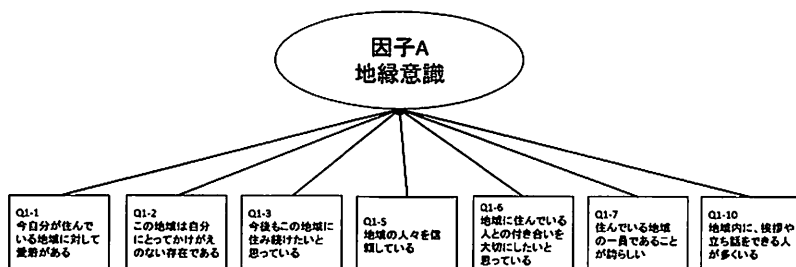


図13 因子A「地縁意識」の構成

表11 因子A「地縁意識」の構成

因子A（地縁意識）の質問群
Q1-1 今自分が住んでいる地域に対して愛着がある
Q1-2 この地域は自分にとってかけがえのない存在である
Q1-3 今後もこの地域に住み続けたいと思っている
Q1-5 地域の人々を信頼している
Q1-6 地域に住んでいる人との付き合いを大切にしたいと思っている
Q1-7 住んでいる地域の一員であることが誇らしい
Q1-10 地域内に、挨拶や立ち話をできる人が多くいる

クセル統計で質問第一の十項目について因子分析を行ったところ二つの因子が抽出されたが、一―四、一―八、一―九の三つの質問に関しては両方の因子に対して因子負荷量が低く、どちらの因子とも関連していないという結果になった(表9)。よって、当該三つの質問(一―四、一―八、一―九)を取り除いた七つの質問について因子分析を行った。すると因子が一つに収束し、因子負荷量も全ての質問について0.6以上という高い数値を示した(表10)。このことから、加納地区においては「地域愛着に関する質問」に関しては一つの潜在意識によって説明がつかないという仮説が成り立つ。次に、導き出された因子が信憑性のあるものであるかどうかを調べるために、クロンバック

表12 地域愛着の因子分析（東三国地区・一回目）

「地域愛着に関する質問」についての因子負荷量（東三国・宮原地区、一回目）

質問	因子1	因子2
Q1-1 今自分が住んでいる地域に対して愛着がある	0.7449	0.3009
Q1-2 この地域は自分にとってかけがえのない存在である	0.7870	0.2395
Q1-3 今後もこの地域に住み続けたいと思っている	0.6406	0.1966
Q1-4 地域のルールやマナーに配慮した生活を送りたい	0.4920	0.3473
Q1-5 地域の人々を信頼している	0.7081	0.3572
Q1-6 地域に住んでいる人との付き合いを大切にしたいと思っている	0.4591	0.5881
Q1-7 住んでいる地域の一員であることが誇らしい	0.7710	0.2561
Q1-8 自治会や小中学校の地縁的な活動に参加している	0.3343	0.3713
Q1-9 地域内に、個人的な楽しみや趣味を共有する友人が多い	0.2410	0.7027
Q1-10 地域内に、挨拶や立ち話をできる人が多くいる	0.2044	0.8950

表13 地域愛着の因子分析（東三国地区・二回目）

「地域愛着に関する質問」についての因子負荷量（東三国・宮原地区、二回目）

質問	因子B	因子C
Q1-1 今自分が住んでいる地域に対して愛着がある	0.7822	0.3117
Q1-2 この地域は自分にとってかけがえのない存在である	0.7990	0.2463
Q1-3 今後もこの地域に住み続けたいと思っている	0.6539	0.1291
Q1-5 地域の人々を信頼している	0.6789	0.2952
Q1-7 住んでいる地域の一員であることが誇らしい	0.7810	0.2393
Q1-9 地域内に、個人的な楽しみや趣味を共有する友人が多い	0.2067	0.8958
Q1-10 地域内に、挨拶や立ち話をできる人が多くいる	0.2929	0.7057

のアルファ係数を求めた。<sup>5)</sup>  
 すると0.9268と高い数値を示したため、導き出された一つの因子は信頼できる因子であると判断した。因子名は、一―「今自分が住んでいる地域に対して愛着がある」や二―「この地域は自分にとってかけがえのない存在である」など地域への愛着を表す質問と、一―五―「地域の人々を信頼している」や一―六―「地域に住んでいる人との付き合いを大切にしたいと思っている」など地域住民に対しての交流

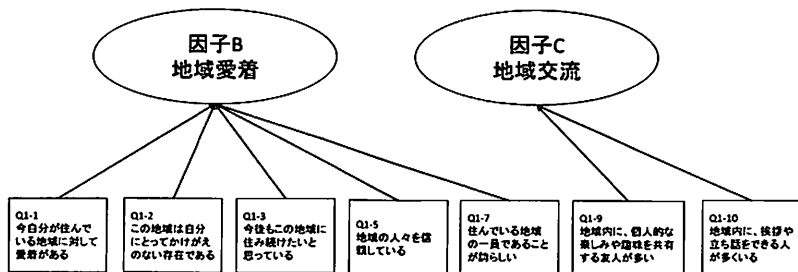


図14 因子B・Cの構成

表14 因子B・Cの構成

因子B (地域愛着) の質問群
Q1-1 今自分が住んでいる地域に対して愛着がある
Q1-2 この地域は自分にとってかけがえのない存在である
Q1-3 今後もこの地域に住み続けたいと思っている
Q1-5 地域の人々を信頼している
Q1-7 住んでいる地域の一員であることが誇らしい
因子C (地域交流) の質問群
Q1-9 地域内に、個人的な楽しみや趣味を共有する友人が多い
Q1-10 地域内に、挨拶や立ち話をできる人が多い

を表す質問とが同じ因子としてまとめられていたため、「地縁意識」という因子名を名付けた(図13、表11)。

(ロ) 東三国・宮原地区

東三国・宮原地区に関して、同様に十の質問に関して主因子法で因子分析を行った。すると、加納地区の時と同じく二つの因子が抽出されたが、前の分析とは違い一四、一六、一八の三項目に関して因子負荷量が低く、いずれの因子にも属さないという結果が出た(表12)。よって、当該三項目(一四、一六、一八)を取り除いた七項目でもう一度因子分析を行った

ところ、今回は一つの因子には収束せず、二つの因子に分かれた(表13)。因子負荷量が0・6以上を示している質問群を同じ因子を持つものと見なし、それぞれの因子の共通点から因子名を名付けることにした。

一つは、一―一、一―二、一―三、一―五、一―七の五項目に関して0・6以上の因子負荷量を示した因子Bである。一―一「今自分が住んでいる地域に対して愛着がある」や一―七「住んでいる地域の一員であることが誇らしい」など、自分たちが住んでいる地域への愛着心を問う質問が多かったことから、この因子Bを「地域愛着」因子と名付けた。

二つ目の因子Cは、一―九「地域内に、個人的な楽しみや趣味を共有する友人が多い」や一―十「地域内に、挨拶や立ち話をできるひとが多い」など、具体的な地域内での人間関係を問うという点で共通していたため、これを「地域交流因子」と名付けた(図14、表14)。

## 第二節 街頭唱題行の認知と地域愛着の関連性

前節の第三項では、「地域愛着に関する質問」について因子分析を行い、因子A「地縁意識」、因子B「地域愛着」、因子C「地域交流」の三つの因子を抽出することができた。また、因子分析をした際に因子得点<sup>16)</sup>を同時に算出したため、これら三つの因子と街頭唱題行の認知がどのように関わり合っているかを分析することが可能となった。本節では、加納地区と東三国・宮原地区の二地域について、前節で分析した各質問の回答にどのような相関関係が生じているかを明らかにする。

まず、加納地区についてであるが、街頭唱題行を「聞いたことがある」と回答した人のみを対象に、因子A

表15 相関係数表（加納地区）

相関行列（加納地区）

	因子 A	唱題行の認知	唱題の頻度	行事への参加
因子 A（地縁意識）	1.0000	0.2194	0.1739	0.2779
Q2-2（街頭唱題行の認知）	0.2194	1.0000	0.4832	0.5381
Q2-3（唱題の頻度）	0.1739	0.4832	1.0000	0.5594
Q2-4-2（行事への参加）	0.2779	0.5381	0.5594	1.0000
Q2-5-3（唱題の意思）	0.3254	0.3532	0.3127	0.5911
Q2-5-4（題目信仰）	0.3553	0.2909	0.3337	0.5253
Q2-5-5（救い）	0.3461	0.2338	0.2725	0.5090
Q2-5-6（安心）	0.3024	0.1865	0.2197	0.4399

「地縁意識」と街頭唱題行の印象、それから寺の行事への参加度を問う質問とのピアソンの積率相関係数<sup>17)</sup>を求めた（表15）。このピアソンの積率相関係数とは二つの回答傾向に相関性が働いているかどうかを判断するための係数であり、0・7以上で強い相関性を持ち、0・4から0・7の間で中程度の相関性を持ち、0・4以下で弱い相関性を持つと一般的に判断される。すると、0・7以上の強い相関性を示す項目はなかったが、二―二「加納地区で街頭唱題行を毎年二月に行っていることをご存知ですか（街頭唱題行の認知）」と二―三「どのぐらいの頻度で南無妙法蓮華経のお題目を唱えますか（唱題の頻度）」と二―四―二「法華寺さんの行事に参加されたことはありませんか（行事への参加）」の三項目については、相関係数が0・4以上を示したため、中程度の相関性があることが分かった。また、二―四―二「行事への参加」は、街頭唱題行の印象に関する四項目とも中程度の相関性を示していることが分かった。

次に、予想された相関関係に対して、極端な値（はずれ値）での回答が出現する確率「P値」を求め、求められた相関関係が正確なものであるかどうかを分析した（表16）。すると、前述の相関関係についてP値が0・01を下回ったため、外れ値の少ない正確な相関関係に

表16 無相関の検定 (加納地区)

母相関係数の無相関の検定 [上三角: P値/下三角: \*, P&lt;0.05 \*\*, P&lt;0.01]

	因子A	唱題行の認知	唱題の頻度	行事への参加	唱題の意思	題目信仰	救い	安心
因子A (地縁意識)	-	0.1797	0.2896	0.0867	0.0432	0.0264	0.0309	0.0613
Q2-2 (街頭唱題行の認知)		-	0.0016	0.0003	0.0274	0.0686	0.1466	0.2491
Q2-3 (唱題の頻度)		**	-	0.0002	0.0526	0.0354	0.0889	0.1731
Q2-4-2 (行事への参加)		**	**	-	0.0001	0.0005	0.0008	0.0045
Q2-5-3 (唱題の意思)	*	*		**	-	0.0000	0.0000	0.0000
Q2-5-4 (題目信仰)	*		*	**	**	-	0.0000	0.0000
Q2-5-5 (救い)	*			**	**	**	-	0.0000
Q2-5-6 (安心)				**	**	**	**	-

あることが分かった。また、因子A「地縁意識」と二一五―三「唱題の意思」、二一五―四「題目信仰」、二一五―五「救い」の三つとの間のP値が0・05を下回ったため、相関関係の強さはやや低いながらも、外れ値の少ない正確な相関関係にあることが分かった。

このことから推察できることは、まず、唱題行を認知しているほど寺の行事に参加している頻度が高いことである。これは、法華寺への関心が御題目に対する信仰や安心感を高めており、逆に御題目に対する信仰が法華寺の行事への参加を促していることが裏付けられたと言える。次に、因子A「地縁意識」と街頭唱題行の印象について、相関の強度はやや低めながらも、はずれ値の少ない正確な相関関係にあることから、加納地区において街頭唱題行を聞くことで「救い」「安心」を見出している人は、地縁意識に対しても肯定感のある人が多いことが分かった。さらに、二一三「唱題の頻度」と二一五―四「題目信仰」についてもP値が0・05を下回っていることから、元々日頃から御題目を唱えている人にとって、街頭唱題行を聞くことは信心増進へと緩やかながらも着実につながっていることが予想される。

以上より求められた相関関係のうち、外れ値の少ない確実な相関関

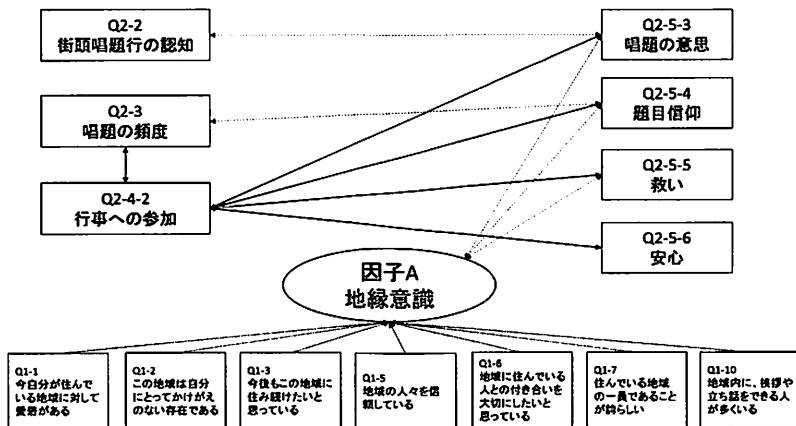


図15 加納地区の意識構造モデル

係（P値が0・05未満）を両矢印で表した、街頭唱題行と地域愛着に関する意識構造モデルを作成した（図15）。中程度以上の相関関係を示したものの（ピアソンの積率相関係数が0・四以上）は実線、弱い相関関係を示したものの（0・4未満）は点線で表している。ただし、相関係数が高くても無相関（P値が0・05より高い）であると検定されたものに関しては、矢印を引いていない。

次に、東三国・宮原地区の回答者のうち、街頭唱題行を「聞いたことがある」と回答した人のみを対象に、因子B「地域愛着」、因子C「地域交流」、二一三「大願寺の夕方五時の鐘の音を聞いたことがありますか（鐘の認知）」、二一三「大願寺の朝の勤行の太鼓を聞いたことがありますか（勤行の認知）」、二一五「大願寺での除夜の鐘に参加されたことはありますか（除夜の鐘）」といった寺院の習慣行事に関する質問、それから街頭唱題行の印象に関する質問について、それぞれについてのピアソンの積率相関係数を求めた（表17）。すると、最も高い相関係数を示したのは因子B「地域愛着」と二一三「勤行の認知」で、0・769と高い相関性を示した。また、因子B「地域愛着」は他にも二一二「鐘の認知」や二一六「救い」とそれぞれ0・591、0・

表17 相関係数表 (東三国地区)

相関行列 (東三国・宮原地区)

	因子B	因子C	鐘の認知	勤行の認知	除夜の鐘
因子B (地域愛着)	1.0000	-0.0988	0.5915	0.7691	0.1985
因子C (地域交流)	-0.0988	1.0000	0.0036	-0.2184	0.1175
2-2 (鐘の認知)	0.5915	0.0036	1.0000	0.4778	0.3581
2-3 (勤行の認知)	0.7691	-0.2184	0.4778	1.0000	0.0724
2-5-2 (除夜の鐘の参加頻度)	0.1985	0.1175	0.3581	0.0724	1.0000
2-6-3 (唱題の意思)	0.1788	-0.2566	0.3230	0.1127	0.0307
2-6-4 (題目信仰)	0.3275	-0.1063	0.3478	0.2682	0.2279
2-6-5 (救い)	0.5567	-0.2128	0.3517	0.4122	0.1809
2-6-6 (安心)	0.3951	-0.1835	0.2884	0.3091	0.0935

表18 無相関検定 (東三国地区)

母相関係数の無相関の検定 [上三角:P値/下三角:\*\*P&lt;0.05\*\*,P&lt;0.01]

	因子B	因子C	鐘の認知	勤行の認知	除夜の鐘	唱題の意思	題目信仰	救い	安心
因子B (地域愛着)	-	0.7368	0.0259	0.0013	0.5363	0.5409	0.2530	0.0387	0.1621
因子C (地域交流)		-	0.9902	0.4532	0.7161	0.3759	0.7175	0.4652	0.5301
2-2 (鐘の認知)	*		-	0.0840	0.2531	0.2599	0.2230	0.2176	0.3174
2-3 (勤行の認知)	**			-	0.8231	0.7013	0.3539	0.1431	0.2822
2-5-2 (除夜の鐘の参加頻度)					-	0.9246	0.4763	0.5736	0.7726
2-6-3 (唱題の意思)						-	0.0010	0.0113	0.0230
2-6-4 (題目信仰)						**	-	0.0029	0.0147
2-6-5 (救い)	*					**	**	-	0.0000
2-6-6 (安心)						*	*	**	-

556という相関係数を示し、中程度の相関関係にあることが分かった。さらに、二―三「勤行の認知」と二―六―五「救い」との間にも、0.447と中程度の相関関係があった。他には、二―二「鐘の認知」と二―三「勤行の認知」が中程度の相関関係を示した。これは、梵鐘の音を認識する人と勤行の音を認識する人が、地理的にほぼ同地域に住んでいることが理由として挙げられるだろう。しかしながら、それぞれの組み合わせについてP値を測定したところ、外れ値の少ない正

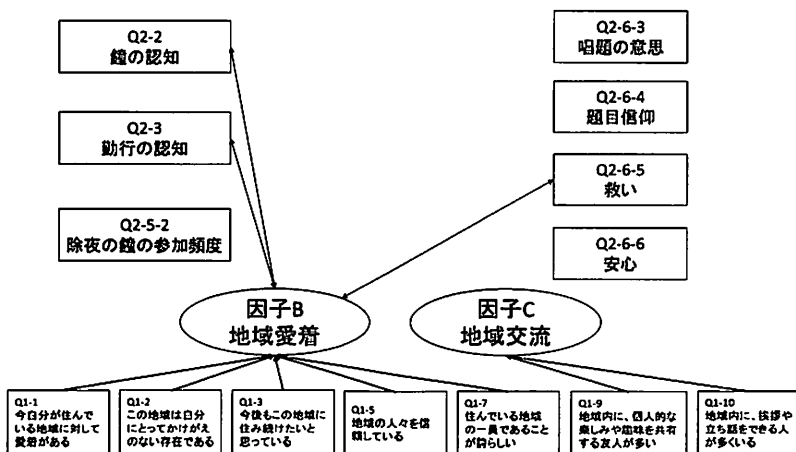


図16 東三国・宮原地区の意識構造モデル

確な相関性があると判断されたのは、因子B「地域愛着」が関わる相関関係のみであった(表18)。

東三国・宮原地区の分析結果から考察できることは、寺院の習慣行事(毎日の勤行や夕刻の鐘など)を深く認識していることと、自分が住んでいる地域への愛着が深く関わっていることである。一方で、因子C「地域交流」はどの質問の回答とも相関性を示さなかったことから、寺院の習慣行事を認知することは地域住民同士の交流の深さには関係していないということが言える。よって、街頭唱題行を認識している人にとっては、たとえ法華宗の信徒ではなかったとしても、寺院の鐘の音や勤行の太鼓の音を居住地域の音資源として受け止めている可能性があるといえよう。それらの音は地域住民同士を交流させるほどの影響力や束縛性はないが、居住地域を特徴付ける音として認識しているとしたら、因子B「地域愛着」と相関性を示したことも納得がいく結果である(図16)。

また、街頭唱題行を「聞いたことがない」と回答した人のみを対象に同様の相関分析を行ったところ、いずれの組み合わせもピアソンの積率相関係数が0.4を下回ったことから、どの

表19 相関係数表（東三国地区）

相関行列（東三国・宮原地区）※街頭唱題行を聞いたことがない人

	因子B	因子C	鐘の認知	勤行の認知	除夜の鐘
因子B（地域愛着）	1.0000	0.1647	0.0543	0.2745	0.2350
因子C（地域交流）	0.1647	1.0000	0.3587	0.3153	-0.1788
2-2（鐘の認知）	0.0543	0.3587	1.0000	0.3109	0.1174
2-3（勤行の認知）	0.2745	0.3153	0.3109	1.0000	0.2549
2-5-2（除夜の鐘の参加頻度）	0.2350	-0.1788	0.1174	0.2549	1.0000

※街頭唱題行を聞いたことが無い人対象

要素も因子B「地域愛着」や因子C「地域交流」と相関性が無いという結果となった（表19）。このことから推察できることは、街頭唱題行を聞いたことがある人の方が、寺の行事への関心が高く、地域に存在するものに対して肯定的に受け取っている傾向にあるということである。

### 第三節 小結く意識構造モデルの比較

以上より、街頭唱題行のアンケート調査の分析を行った。結果、加納地区と東三国・宮原地区とで意識構造モデルに大きく差が出るかたちとなった。まず、加納地区の分析結果は、寺院の行事への参加と街頭唱題行の印象に強い相関があることが特徴的であった。このことから、菩提寺の行事に檀信徒が参加するほど、唱題行など寺側の活動に対しても肯定的な印象を持つことが明らかになった。また、街頭唱題行によって御題目の信仰を深めたり、自分たちにとって救いであると感じたりしている人ほど、地縁意識を感じているという結果も出た。法華寺では法要の際に当番制で村の檀信徒の方々がお手伝いをされている。そのことが檀信徒間での交流を生み、同じ御題目を信じる者として互いの信頼感を生んでいるとも推察できる。

一方、東三国・宮原地区に関しては加納地区に比べると質問項目や因子間

での相関関係はかなり薄かったと言える。特に、因子C「地域交流」は他のどの項目とも相関性を示さなかったことから、寺院の活動や街頭唱題行は地域での人付き合いの深さには全く関係が無いことが分かった。しかしながら、因子B「地域愛着」は二一二「鐘の認知」や二一三「勤行の認知」と相関性を示していたことから、寺院から聞こえてくる音を頻繁に耳にしている人は、自分たちが住んでいる地域に愛着を持つという傾向が推察できる。また、地域に対して愛着がある人は街頭唱題行に対して「救いである」と回答する傾向にあったことから、たとえ法華宗の信徒でなく御題目への信仰が無い人であったとしても、地域に対して愛着を抱いている人にとっては街頭唱題行という行為によって「救われている」と感じる傾向にあることが分かった。この傾向から、大願寺が東三国・宮原地区に対して与える影響は地域住民同士の交流というよりは地域そのものへの愛着心であることが明らかとなったといえよう。除夜の鐘以外にも、法話の会を開くなど一般の方でも気軽に参加できるような活動を行うことで、因子C「地域交流」も育てていくことが可能かもしれない。それは、今後の反省として踏まえていきたい。

### 第三章 街頭唱題行の功德と下種行について

本章を論ずるに先立って、前章のアンケート分析によって得た、左記の点を押さえておきたい。

(イ) 加納地区の住民(法華宗の信徒)は、街頭唱題行を聞くことで「御題目を唱えようと思った」「御題目の信仰が深まった」とする傾向があった。

(ロ) 東三国・宮原地区の住民(法華宗の信徒でない人)にとっては、街頭唱題行を聞いたとしてもそれが「唱

題の意思」や「御題目の信仰」には結びついていなかったが、街頭唱題行が「救い」や「安心」であると感  
じる人が少なからずいた。しかしながら、最も多かった回答は「どちらでもない」であった。

(八)「街頭唱題行にはどのような意義があると思いますか(複数回答可)」という質問に対し、加納地区は「先祖供養」や「先聖先師への報恩謝徳」など多義的に街頭唱題行の意味を捉えていたのに対し、東三国・宮原地区ではあくまで「僧侶側の修行のため」だと捉える傾向にあった。

以上の点を踏まえると、当宗の信徒であれば、街頭唱題行で御題目を聞くことで信仰を深める傾向にあると言えるが、逆に当宗の信徒でなければ無関心である人が多数を占めており、街頭唱題行が聞こえていたとしても信仰心には結びついていない場合がほとんどであった。また、東三国・宮原地区では第一章で述べたような「初めて街頭唱題行を聞いた時、姿を見た時、訳が分からずとても怖い思いをしました。」といった街頭唱題行に対する否定的な感想があったことや、回収率が想定していたよりも低かったことなどから、むしろ信仰を深めることとは逆の方向の感想を持つ住民が多かったことが推察できる。要するに、元々当宗の信徒ではなく、かつ御題目への信仰も無かった人が街頭唱題行を聞いたとしても、御題目の信仰を持つに至るというケースは現代社会においてほとんど見込めない、むしろ誇る人がほとんどであるということが今回のアンケートで明るみになったといえよう。日蓮聖人(以後、宗祖と記す)は「法華取要抄」において、「我が門弟は順縁、日本国は逆縁なり」と説かれており、鎌倉時代においても日本の民衆のほとんどが他宗の信徒であり、法華経や御題目を誇っていたという時代背景が伺える。また、「寺泊御書」において「法華文句記」を引用された上で、「聞かんと欲せず、信ぜんと欲せず、その機に当らざるは言を出して誇ることなきも、皆怨嫉の者と定めんぬ。」と説かれており、例え口に出して誇るなかったとしても、正法を信じようとする者には逆縁の衆生であるとしていたことが推察できる。

しかしながら、たとえ信仰に至らなかつたとしても街頭唱題行を「救い」であると感じている人がいたという結果も出た。それは梵鐘や勤行の音を聞くことで地域性を認識し、地域への愛着という深層意識を媒介として、地域での宗教活動も自分たちにとって救いであると認識しているという意識構造であった。また、たとえ救いであると認識していなかつた人びとにとつても、御題目を耳にすることが聞き手にとつて無意味というわけではない。その理由については、後の本章第二節「逆縁下種について」において述べることにする。

本章では、当宗の僧侶が地域に出て街頭唱題行を行うことの意義を、経文や宗祖の御遺文から考察することが目的である。

## 第一節 当宗における聞法下種について

まず「聞法」という言葉についてであるが、妙法蓮華經の方便品第二に、「若しこの法を聞くこと有りしならば、皆、已に佛道を成じたり」、また「若し法を聞くことあらん者は、一として成仏せずということなからん」と説かれている。このように、成仏の為にはまずは仏法に出逢うこと、仏法を聞くこと即ち聞法が大切であるとされている。ただ、この「聞法」とは具体的には如何なる行為であるかは注意が必要である。次に、「下種」という言葉についてであるが、華嚴經卷第十の明法品第十四に「佛の種子を衆生の田に下し、正覚の芽を生ず」と説かれているように、佛種子を衆生の心田に下すことをいう。また、「日蓮宗事典」には、下種について「仏が衆生の心田に成仏の種子を下すこと」と定義されている。当宗における成仏の種子とは、単に法華經の題目のことを指すのではなく、本地本門法華經に明かされた宗旨であるという点を考慮すべきである。要するに、根本の

大法である方法万行万戒の功德を総在する一大秘法の総名南無妙法蓮華經である。<sup>(24)</sup> この総名南無妙法蓮華經を開くこと、即ち聞法することが、末法の衆生に最も必要な下種の第一段階とされている。

株橋日涌先生の「八品教学における下種の種子論と心田論」によると、その総名南無妙法蓮華經こそが滅後末法衆生の心田に下種すべき修得種子であり、それは衆生に備わっている三因仏種（性得種子）を開発するものであると述べられている。<sup>(25)</sup> また、同論文において下種の第一条件を「聞法」とした上で、聞法について次のように結論づけられている。

聞法は衆生の第六識によるのであるが、この第六識を要法の受入口として衆生靈體の深層識たる第八阿頼耶に薰習下種するのである。これが第八識下種であり、この第八識が所薰の要法を衆生の根本識心王たる第九識に薰じ、經力によって第九識の法性真如をして信を發せしむる。<sup>(26)</sup>

「第六識」とは六識（眼識・耳識・鼻識・舌識・身識・意識）のうちの六番目、即ち意識のことである。中村元著「佛敎語大辞典」によると「唯識説で、識に八種を数えるうちの第六番目である意識をいう。これ以前の五識が判断を含まない感覺・知覚であるのに対し、知覚以後の分別判断、ないし、いわゆる意識を総称する。ただし、第七・第八にあげられる無意識的な識とは區別される。」<sup>(27)</sup>と証明されている。また、「第八阿頼耶」とは唯識派によつて説かれた名称であり、同じく「佛敎語大辞典」によると「唯識説で説く最も根元的な識のはたらき。覆われて潜在している意識。心の奥底に蔵されている識。（中略）非可視的、非現象的で、意識下の意識のようなもの。前の瞬間の心作用の印象をたくわえ、次の瞬間の心作用をひき起こす。一切現象の直接原因である種子をうけこみ、それを自らに貯蔵する精神的原理である。」<sup>(28)</sup>とある。また、「第九識」とは阿摩羅識のことであり、「阿頼耶識が究極の空の境地に帰したところをいう。清らかな根本識。また、自性清浄心に同じ。唯識学などでは、六識

のほかに末耶識と阿頼耶識の八識説を立て、阿頼耶識が迷いを捨ててさとりのだがたに転換した清浄な位において、人間の心は本然のすがたでは迷いを離れた清浄なものであるとして、かくいう<sup>29)</sup>と定義されている。こうした第六識、第八識、第九識と下種との関係について、前掲の株橋日涌先生と同論文においては、まず第六識と第八識との関係について、

要法の種子をどの識に植えるかといえ、それは第八阿頼耶でなくてはならない。何となれば第六識は隔生すれば消失する故に眞の下種の心田ではない。仍て第六識を能通の門として第八識に通入し、この識に要法を植えつけるのである。故に第八識が下種の心田である。<sup>30)</sup>

と述べられている。そして「第九識はこれ眞如識であつて法界周遍の法性心であるから、この第九識も要法の種子を受容するものではない。」と解説されており、三世において持続する不滅の第八識が下種すべき心田であると結論づけられている。そこでは所聞の法が能薫であり、衆生の識のうち第八識が所薫であるという関係になる。<sup>31)</sup>

当宗の教義に則つて街頭唱題行を修行した場合、総名南無妙法蓮華經を唱え、末法の本未有善の衆生の心田（第六識を受入口とした第八阿頼耶識）に薫習することが目的となる。特に、受け手である人びとが当宗の信徒だけでなく他宗の信徒もしくは無宗教の人びとであるということが、街頭で唱題行を行うことの特徴の一つと言えよう。加納地区のように下種の対象者が檀信徒である場合もあれば、東三国・宮原地区のようにほとんどが当宗の信徒ではない場合もある。しかし、信仰の有無に関わらず周りにいる人全てに平等に聞こえるというのが音環境の特徴であり強みでもある。一方で、地域住民にとつて音環境は回避できない環境であるという側面もあり、街頭唱題行に対して否定的な意見を持つ住民がいたことも深く考慮すべきであろう。そのような人びとが聞法することによつてどのような意義があるのかについては、次節で論じたい。

## 第二節 逆縁下種について

「逆縁」とは、「日蓮宗事典」によると「法を聞いて誹謗すれば、謗法の失によって一度は地獄におちるが、やがて出獄して再び聞法して仏道に入る因縁となること」と定義されている。

妙法蓮華經の常不輕菩薩品第二十には次のように説かれている。

われ先仏の所みとにおいて、この經を受持し誦誦し、人のために説きしが故に、疾く阿耨多羅三藐三菩提を得たるなり。得大勢よ、彼の時の四衆たる比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷は瞋恚の意を以つて、われを輕かろじ賤いやしむるが故に、二百億劫に常に仏に値いたてまつらず、法を聞かず、僧を見ずして、千劫、阿鼻地獄において大苦惱を受く。この罪を畢おえること已りて、復常不輕菩薩の、阿耨多羅三藐三菩提に教化するに遇あえり。

この經文では、増上慢の四衆は常不輕菩薩を賤しんだ罪で二百億劫の長い間仏や仏法や僧にあえず、千劫の間阿鼻地獄において苦しみを受けるが、その罪を消滅し終えたときには常不輕菩薩の教化に出会い成仏するとされてゐる。よつて、法華經を謗つた者（逆縁の衆生）がいたとしても、法華經を聞いた縁によつていづれは成仏に向かえるという内容が説かれている。これは、謗法者に対して法師がどのように教化し、成仏の道へと向かわせるべきかを示した經文と言へるだろう。

また、大般涅槃經卷第九の菩薩品第十六には、次のような譬えがある。

譬えば人有りて、雜毒藥を以て用ひて太鼓に塗り、大衆の中に於て撃ちて聲を發さしむ。心の聞かんと欲する無しと雖も、之を聞かば皆死す。

ここでは、毒を塗つた太鼓を叩けば、たとえ衆生に聞こうとする心が無かつたとしてもその音を聞いたら死ん

でしきうのと同じように、たとえ謗法者であつたとしても強いて正法を聞かせることで成仏の縁を結ぶことができる」と説かれている。

また、天台大師智顛は「法華文句」卷第十上の不輕品積義において、

毀者は善惡の両果を得。誘るが故に惡に墮し、佛性の名を聞く毒鼓の力は善の果報を獲るなり。<sup>35</sup>

と示されており、法華經を誘つた者は惡道に墮すことは免れないとしながらも、聞法した功德によつて将来的には善の果報を獲得できると説かれている。また、ここで智顛は「毒鼓」の譬えを引用しているが、この譬えは元を辿れば涅槃經の功德を説くものはずである。しかし天台大師智顛は「法華玄義」卷第九の上において、「法華は折伏して權門の理を破す。金沙大河の復廻曲無きが如し。涅槃は損受して更に權門を許す<sup>36</sup>」と説かれ、前述の「法華文句」の不輕品積義において「毒鼓」という言葉を用いていることから、「毒鼓の縁」の譬えの本意は、法華經の不輕品に説かれる折伏行にあると考えることができる。

逆縁下種の思想は、宗祖の御遺文にも見ることができ、「教機時國抄」には、次のように説かれている。

問て云く、無智の人の中にして此の經を説くこと莫れとの文は如何。答て云く、機を知るは智人の説法する事なり。又謗法の者に向ては一向に法華經を説くべし。毒鼓の縁と成さんが為なり。例せば不輕菩薩の如し。<sup>37</sup>

宗祖も「毒鼓の縁」の譬えを引用されており、不輕菩薩のように謗法者に正法をとにかく聞かせるべきであることが説示されている。この点について株橋日涌先生は、「本鈔における折伏は、滅後末法には小權等諸經を漸説するのではなく、常不輕菩薩の如く実教たる法華經を直説すべきである。何故かその理由は逆縁下種といつて下機の衆生に毒鼓の縁を結ばしめることである」と述べており、本抄における折伏とは、逆縁下種であることを指摘している<sup>38</sup>。もつとも、同抄では「愚者と知らば必ず先づ実大乘を教ふべし。信謗共に下種と為ればなり」と

も説かれていることから、正法に帰依する者に対しても、謗法の者に対しても、共通して下種が必要であるとされていることも読み取れる。しかしながら、末代の凡夫は何れにしても悪道に墮することは免れず、同じ悪道に墮するならばせめて法華経を謗せさせて悪道に墮せしめよという徹底的な逆縁下種の折伏の道理を宗祖は「顕謗法抄」において立てられたことを株橋日涌先生は指摘されており、同抄における次のような文言をとりあげられている。

末代の凡夫はなにとなくとも悪道を免れんことはかたかるべし。同じく悪道に墮るならば、法華経を謗せさせて墮すならば、世間の罪をもて墮たるにはにるべからず。聞法生謗墮於地獄勝於供養恒沙佛者等の文のごとし。此文の心は法華経をほう(謗)じて地獄に墮ちたるは、釈迦佛・阿彌陀佛等の恒河沙の佛を供養帰歸依渴仰する功德には百千萬倍すぎたりととかれたり。<sup>40)</sup>

つまり、宗祖における逆縁下種の本義は、末代の凡夫に法華経を聞法させそれを毀謗させることで、免れられない墮地獄のさらなるその先にある成仏の為の因を作ることにあると言えよう。また宗祖は「法華取要抄」において、次のようにも説かれている。

末法においては、大・小・権・実・顕・密共に教のみ有って得道無し。一閻浮提皆謗法となり了ぬ。逆縁の爲には但妙法蓮華経の五字に限る耳。例せば不輕品の如し。我が門弟は順縁、日本国は逆縁なり。<sup>41)</sup>

末法においては皆本未有善の鈍根の衆生であり、特に謗法者に対しては総名南無妙法蓮華経を唱え聞かせることでしか成仏への道はないとされている。ここでも「例せば不輕品の如し」という文があり、不輕品を末法弘通の方軌としていたことが推察できる。加えて、宗祖は「法華初心成仏抄」において、

当世の人何となくとも法華經に背く失に依りて地獄に墮ちん事疑ひなき故に、とてもかくても法華經を強ひて説き聞かすべし。信ぜん人は仏になるべし。謗ぜん者は毒鼓の縁となつて仏になるべき也。何にとしても仏の種は法華經より外になきなり。

と説かれており、順縁の衆生（信ぜん人）は御題目を素直に受け入れるため、聞信口唱することで即身成仏の功德を得ることができ、一方で、逆縁の衆生（謗ぜん者）は前に述べたように墮獄し罪苦を受けることは免れないが、総名南無妙法蓮華經を聞いたことが縁となり、必ず成仏に向かえるとされている。この御書は眞蹟はないものの、順縁、逆縁ともに法華經による縁を与えることを重視したものとして、見逃せない説示であるといえる。

以上のことから、宗祖が信者に対しても謗法者に対しても、遅速の差はあれど最終的には成仏に向かうことを願ひ、そのために唱題をもつて下種行を実践していくべきであると説示されていることが分かる。

### 第三節 下種行の社会的意義について

以上より、街頭唱題行で総名南無妙法蓮華經を唱え聞かせることは、末法の本未有善の衆生に対して仏種を下すことであるということ、そしてそれは信者に対しても謗法者に対しても成仏のための善因を作る行為であるということが分かった。宗祖は「法華題目抄」において、

問うて云はく、題目計りを唱ふる証文これありや。答へて云はく、妙法華經の第八に云はく「法華の名を受持せん者、福量るべからず」と。正法華經に云はく「若し此の經を聞きて名号を宣持せば、徳量るべからず」と。添品法華經に云はく「法華の名を受持せん者、福量るべからず」等云云。此等の文は題目計りを唱

ふる福計るべからずとみへぬ。<sup>(4)</sup>

と説かれており、妙法蓮華經卷第八の陀羅尼品第二十六の經文を引用された上で、総名南無妙法蓮華經を唱えることの福は推し量ることができないほど広大であると述べられている。

僧侶が街頭に出て説經もしくは唱題をするとき、現代社会においては「なぜ街に出てまで布教活動をするのか」「それは僧侶側の都合ではないのか」といった意見もしばしば耳にする。それは、アンケート調査において東三国・宮原地区の住民が街頭唱題行を「自分たち（僧侶）の修行のため」と受け止めていることから察することができる。しかしながら、当宗の教義に則って修行する街頭唱題行は、唱題する僧侶や、その地に因縁のある諸精靈のためにとどまるものではない。今を生きている住民に対して成仏の因を植えるものであり、末法の衆生が平等に享受できる利益でもある。また宗祖は、「法華初心成仏抄」において、

不審あり。衆生の根性區にして、念佛を聞かんと願ふ人もあり、法華經を聞かんと願ふ人もあり。念佛を聞かんと願ふ人に、法華經を説いて聞かせんは何の得益かあるべき。又念佛を聞かんが為に請じたらん時にも、強て法華經を説くべきか。佛の説法も機に隨ひて得益有るをこそ本意とし給ふらんと、不審する人あらば云ふべし。元より末法の世には、無智の人に機に叶ひ叶はざるを顧みず、但強いて法華經の五字の名号を説て持たすべきなり。<sup>(4)</sup>

と説かれている。本抄は真蹟がなく、日朝師写本しか存在しない御書ではある。しかし、ただひたすらに御題目を衆生に唱えきかせることによつてのみ、皆が成仏できる道があるとされているその内容は、様々な宗教、宗派が存在する現代の日本においても、通ずるところがあるといえよう。

## 結論

今回の研究では、まず地域住民による街頭唱題行の認識をアンケートにより調査した上で、当宗の僧侶が街頭唱題行を修行することの意義を論じた。

北川順也著『お寺が救う無縁社会』には、次のように述べられている。

仏教思想、強いていえば日本仏教の根本には、我々は多くの生きとし生けるものと繋がりの中で生かされているという共生の考えがある。それは、お互いに助けあい、困っている人びとに手を差し伸べ、ともに生きていくという、片寄らない中道の精神である。<sup>45</sup>

当宗が唱える総名南無妙法蓮華経は、あらゆる功德を総在した良薬であり、あらゆる人びとに等しく成仏の善因を与えるものである。たとえ、街頭唱題行に対して否定的な感情を持ったとしても、毒鼓の縁によって将来的に成仏するための過程の一つであることを考慮するならば、それは意義のあるものといえよう。

一方で、加納地区と東三国・宮原地区とでは、ほとんど同じ内容のアンケートを取ったにも関わらず、寺院に対する認知度や街頭唱題行に対する意味付けが大きく違っていたことが分かった。無論、当宗の信徒か否かによつて街頭唱題行の捉え方が変わってくることは予想できたが、東三国・宮原地区のような都市空間では、外に出ての宗教活動に関して抵抗感のある意見も少なからずあったほか、地域内の人びとの交流に対して寺院の活動が関わっていないという意識構造も見てとれた。今後、都市のスプロール現象や分散化によつて、地域に古くから存在する宗教施設に対する認知度や土着意識は低下の一途を辿ることが予想される。しかしながら、日々の勤行や鐘の音など、日常的に僧侶が行っている宗教活動を地域住民が認知すれば、街頭唱題行を「救い」であると認識する傾向にもあったことから、寺院が潜在的に持ちうる社会性・公共性は、僧侶が日常的に行う勤行や活動

にあるのではないかという知見を、今回の研究で得たといえよう。当宗においては、最も日常的に修行するべきことは御題目を信じ唱える「信行」であり、それを習慣づけることで宗教活動の意義を地域住民にも自然に認識してもらふことではないだろうかと考える。

また近い将来に、南海トラフ巨大地震など大規模な自然災害が起これるとメディアは予想している。そのようなことが万が一起こったときに、真っ先に全ての人の成仏を願い、人の悲しみや不安に自然と寄り添えるように、日頃の修行から積み重ねていかなければならないのではないか。そのことを強く認識した次第であるという決意を述べて、この研究の結びの言葉としたい。

#### 【資料】

- (イ) アンケート案内文（加納地区配布分）
- (ロ) アンケート原本（加納地区配布分）
- (ハ) アンケート案内文（東三国・宮原地区配布分）
- (ニ) アンケート原本（東三国・宮原地区配布分）

## 加納地域における街頭唱題行に関するアンケート調査

—ご協力をお願い—

### 加納地区にご在住の皆様

合掌

向寒の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私は現在、興隆学林専門学校の卒業論文で地域の寺院への関わりと街頭唱題行に関する研究を行なっております。その一環として、加納地区にご在住の皆様を対象に、街頭唱題行に関するアンケート調査を実施させて頂くこととなりました。

つきましては、ご多忙の折、大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解の上、アンケート調査にご協力いただけますようお願い申し上げます。なお、ご回答いただいたアンケートは統計的に集計し、破棄する場合も厳重に処理いたしますので、プライバシーの保護に関してご迷惑をおかけする事はございません。

再拝

平成27年11月

興隆学林専門学校 宗学研究科二年 吉村英敏

#### 記入上の注意

- 20歳以上の方がご回答下さい。5分程度で回答できます。
- アンケートはA4サイズで表と裏に質問がございます。

## 加納地域における街頭唱題行に関するアンケート

以下の各項目について該当する口に✓を、または( )内に記入してご回答ください。  
 ※ご不明な場合、またはお答えしにくい場合は空欄のままで構いません。

《1》 お住まいの地域への意識についてお伺いします。

＜7段階評価の項目は、以下のように解釈してお答えください＞

《例》 ← 当てはまる                      どちらともいえない                      当てはまらない →

←        →

	質問事項	評価							
		当てはまる	とち	当てはまる	少し	どちらでもない	あまり	当てはまらない	全く
	お住まいの地域 (加納地域) に対して								
①	今自分が住んでいる地域に対して愛着がある	←	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
②	この地域は自分にとってかけがえのない存在である	←	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
③	今後もこの地域に住み続けたいと思っている	←	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
④	地域のルールやマナーに配慮した生活を送りたい	←	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
⑤	地域の人々を信頼している	←	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
⑥	地域に住んでいる人との付き合いを大切にしたいと思っている	←	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
⑦	住んでいる地域の一員であることが誇らしい	←	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
⑧	自治会や小中学校の地縁的な活動に参加している	←	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
⑨	地域内に、個人的な楽しみや趣味を共有する友人が多い	←	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→
⑩	地域内に、挨拶や立ち話をできる人が多い	←	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→

《2》 お寺や街頭唱題行への認識についてお伺いします。

質問事項	回答欄	
① あなたは法華寺さんの信徒ですか	<input type="checkbox"/> 信徒である	<input type="checkbox"/> 信徒ではない
② 加納地区で街頭唱題行を毎年2月に行っていることをご存知ですか	<input type="checkbox"/> よく知っている	<input type="checkbox"/> 何となく知っている
	<input type="checkbox"/> どちらともいえない	<input type="checkbox"/> あまり知らない
		<input type="checkbox"/> 全く知らない



## 東三国・宮原地域における街頭唱題行に関するアンケート調査

—ご協力をお願い—

### 東三国・宮原地区にご在住の皆様

厳寒の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

私は、淀川区東三国の大願寺というお寺で修行僧をさせて頂いております、吉村英敏と申します。現在、尼崎の興隆学林専門学校に通っており、同校の卒業論文で「地域の寺院への関わり方」と「街頭唱題行」に関する研究を行なっております。その一環として、東三国・宮原地区において11月から12月までの夕刻（不定期）に、街頭唱題行をご修行させて頂きました。また、厚かましいお願いと存じますが、ご在住の皆様を対象に、アンケート調査を実施させて頂きたく思っております。

つきましては、ご多忙の折大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解の上、アンケート調査にご協力いただきますよう宜しくお願い申し上げます。なお、ご回答いただいたアンケートは統計的に集計し、破棄する場合も厳重に処理いたしますので、プライバシーの保護に関してご迷惑をおかけする事はございません。

平成27年12月

興隆学林専門学校 宗学研究科二年 吉村英敏

#### 記入上の注意

- 当アンケートは、布教活動としてではなく研究の一環として行っておりますので、ご信者でない方もお気軽にご回答頂けると幸いです。
- 20歳以上の方がご回答下さい。5分程度で回答できます。
- アンケートはA4サイズで表と裏に質問がございます。
- 回答できましたら、同封されている茶色の封筒に入れてポストに投函ください。

## 東三国・宮原地域における街頭唱題行に関するアンケート

以下の各項目について該当する口に✓を、または（ ）内に記入してご回答ください。  
※ご不明な場合、またはお答えしにくい場合は空欄のままご回答ください。

《1》 お住まいの地域への意識についてお伺いします。

＜7段階評価の項目は、以下のように解釈してお答えください＞

《例》 ← 当てはまる                      どちらともいえない                      当てはまらない →

←        →

質問事項	当てはまる とても	当てはまる	当てはまる 少し	どちらでもない	当てはまらない あまり	当てはまらない	当てはまらない 全く
① 今自分が住んでいる地域に対して愛着がある	← <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>
② この地域は自分にとってかけがえのない存在である	← <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>
③ 今後もこの地域に住み続けたいと思っている	← <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>
④ 地域のルールやマナーに配慮した生活を送りたい	← <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>
⑤ 地域の人々を信頼している	← <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>
⑥ 地域に住んでいる人との付き合いを大切にしたいと思っている	← <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>
⑦ 住んでいる地域の一員であることが誇らしい	← <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>
⑧ 自治会や小中学校の地縁的な活動に参加している	← <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>
⑨ 地域内に、個人的な楽しみや趣味を共有する友人が多い	← <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>
⑩ 地域内に、挨拶や立ち話をできる人が多い	← <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>

《2》 お寺や街頭唱題行への認識についてお伺いします。

質問事項	回答欄	
① あなたは大願寺の信徒さんですか	<input type="checkbox"/> 信徒である	<input type="checkbox"/> 信徒ではない
② 大願寺の夕方 5 時の鐘の音を聞いたことがありますか	<input type="checkbox"/> いつも聞いている	<input type="checkbox"/> 時々聞いたことがある
	<input type="checkbox"/> 数回聞いたことがある	<input type="checkbox"/> 全く聞いたことがない

③	大願寺の朝の勤行の太鼓を聞いたことがありますか	<input type="checkbox"/> いつも聞いている <input type="checkbox"/> 時々聞いたことがある <input type="checkbox"/> 数回聞いたことがある <input type="checkbox"/> 全く聞いたことがない
④	①で僧徒であると回答された方へ どのぐらいの頻度で南無妙法蓮華經のお題目を唱えますか	<input type="checkbox"/> 毎日欠かさず唱えている <input type="checkbox"/> ほとんど毎日唱えている <input type="checkbox"/> 2～3日のうち一日は唱えている <input type="checkbox"/> 一週間に一日は唱えている <input type="checkbox"/> 一ヶ月に一日は唱えている <input type="checkbox"/> 特別な時でないとは唱えない <input type="checkbox"/> 全く唱えない
⑤	(1)除夜の鐘が、毎年大願寺で行われていることを知っていますか	<input type="checkbox"/> 知っている <input type="checkbox"/> 知らない
	(2)①で知っているとお答された方へ 大願寺での除夜の鐘に参加されたことはありますか	<input type="checkbox"/> よく参加している <input type="checkbox"/> 時々参加している <input type="checkbox"/> まれに参加している <input type="checkbox"/> ほとんど参加したことがない <input type="checkbox"/> 全く参加したことがない
⑥	(1)大願寺の街頭唱題行を見た、あるいは聞いたことがありますか	<input type="checkbox"/> 聞いたことがある <input type="checkbox"/> 聞いたことはない
	以下、(1)で聞いたことがあるとお答された方へ	<input type="checkbox"/> 先祖供養のため <input type="checkbox"/> 地域の精霊への供養のため <input type="checkbox"/> 自分たちの戒仏のため <input type="checkbox"/> 自分たちの修行のため
	(2)街頭唱題行にはどのような意義があると感じますか(複数回答可)	<input type="checkbox"/> 日蓮聖人や先師への報恩謝徳のため <input type="checkbox"/> それ以外( )
	(3)街頭唱題行を聞いて、南無妙法蓮華經のお題目を唱えようと思いましたか	<input type="checkbox"/> とてもそう思った <input type="checkbox"/> まあそう思った <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> あまりそう思わなかった <input type="checkbox"/> 全くそう思わなかった
	(4)街頭唱題行を聞いて、お題目に対する信仰が深まったと思いましたか	<input type="checkbox"/> とてもそう思った <input type="checkbox"/> まあそう思った <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> あまりそう思わなかった <input type="checkbox"/> 全くそう思わなかった
	(5)街頭唱題行は、あなたにとって救いになっていると思いますか	<input type="checkbox"/> とてもそう思う <input type="checkbox"/> まあそう思う <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> あまりそう思わない <input type="checkbox"/> 全くそう思わない
	(6)街頭唱題行は、あなたに安心感をもたらしていると思いますか	<input type="checkbox"/> とてもそう思う <input type="checkbox"/> まあそう思う <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> あまりそう思わない <input type="checkbox"/> 全くそう思わない

③ あなたのプロフィールについてお伺いします。

	質問事項	回答欄
①	「性別」をお選びください	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
②	「年齢」をお選びください	<input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代以上
③	(1)「家族構成」をお選びください	<input type="checkbox"/> 単身世帯 <input type="checkbox"/> 夫婦世帯 <input type="checkbox"/> 親子世帯 <input type="checkbox"/> その他( )
	(2)①で親子世帯とお答された方へ 「お子様の就学状況」をお選びください (2人以上の場合は複数お答えください)	<input type="checkbox"/> 就学前 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 大学・大学院・各種学校 <input type="checkbox"/> その他( )
④	「居住歴」をお選びください	<input type="checkbox"/> 2年未満 <input type="checkbox"/> 2～5年 <input type="checkbox"/> 5～10年 <input type="checkbox"/> 10～20年 <input type="checkbox"/> 20～30年 <input type="checkbox"/> 30年以上

ご協力いただきありがとうございました。アンケートは茶色の封筒に入れていただき、もし可能であれば12月29日までEポストに投函してくださいませよう、よろしく願い致します。大願寺 吉村英敬

註

- (1) 三木英編著「復興と宗教―震災後の人と社会を癒すもの―」(東方出版、二〇〇一年)一九六―二〇二頁
- (2) 三宅敬誠著「寺院の社会福祉」(せせらぎ出版、二〇〇五年)一四六頁
- (3) 洗健著「宗教と公益」(東京都宗教連盟第四〇回宗教法人運営実務研究協議会講演録、二〇一〇年)二六―二七頁
- (4) 小西徹龍著「法華シリーズ六・日隆聖人略伝」(東方出版、一九八五年)二五〇頁
- (5) 三浦日脩著「日隆聖人への旅」(東方出版、二〇一一年)一〇一―一〇二頁
- (6) 加納地区は南加納と北加納に大別されており、今回対象となっている「一村」とは北加納地区のことを指す。北加納地区長の話によると世帯数は58、人口は187人とのことである。北加納地区の人々は主に農業を営んでおり、米・野菜・果物などを栽培している。
- (7) 大願寺発行「大願寺略縁起 長柄人柱の由来」より(発行年不詳)
- (8) 淀川区コミュニティ協会発行「YODOGAWAKUふれあいマップ」より(発行年不詳)
- (9) 特に話をしたり素性を聞いたりということはしていないが、御礼として散華をお渡しした。
- (10) アンケート回答数は加納地区が51、東三国・宮原地区が54と、統計解析を行う上ではやや少なく、再現性の高いサンプル数であるとは言えない。しかしながら、アンケート対象地域が広範囲に及ぶと街頭唱題行を認知している人がそもそも少なくなること、今後の研究に繋げる上で一定の知見を得る価値はあると考え、今回はこのサンプル数で統計解析を行うこととした。

- (11) 因子分析とは多変数の観測データからその中に潜在する共通因子を求める手法で、一九〇四年にスピアマン(Spearman)によって提案された。観測データは結果系であり、その原因系としての因子を求める。(参考:「因子分析/統計用語集/統計Web」<https://bellcurve.jp/statistics/glossary/658.html> 最終確認日二〇一八年二月三日)

- (12) 統計解析アドインソフト・エクセル統計2105を用いた。
- (13) 因子分析においては、得られた結果が解釈しやすい構造となるように新しい座標系を設定(回転)することが多い。回転には回転後の座標軸が直交する直交回転と直交しない斜交回転とがある。バリマックス回転とは、直行回転のうちの1つである。(参考:「因子の回転/統計用語集/統計Web」<https://bellcurve.jp/statistics/glossary/654.html> 最終確認日二〇一八年二月三日)
- (14) 因子負荷量とは、因子分析において得られた共通因子が分析に用いた変数(観測変数)に与える影響の強さを表す値で、観測変数と因子得点との相関係数に相当する。マイナス1以上1以下の値をとり、因子負荷量の絶対値が大きいほど、その共通因子と観測変数の間に強い相関があることを示し、観測変数をよく説明する因子であると言える。(参考:「因子負荷量/統計用語集/統計Web」<https://bellcurve.jp/statistics/glossary/660.html> 最終確認日二〇一八年二月三日)
- (15) クロンバックのアルファ係数とは、性格検査の質問項目のように、ある特性に対して複数の質問項目を設け、回答の合計値(尺度得点)を特性尺度として用いるときに、各質問項目が全体として同じ概念や対象を測定したかどうか(内的整合性)を評価する信頼係数。0から1までの値をとり、1に近いほど信頼性が高い。(参考:「クロンバックのアルファ( $\alpha$ )/統計用語集/統計Web」<https://bellcurve.jp/statistics/glossary/1274.html> 最終確認日二〇一八年二月三日)
- (16) 因子分析において、各個体を持つそれぞれの因子に対する重みのこと。因子スコアと呼ぶこともある。(参考:「因子得点/統計用語集/統計Web」<https://bellcurve.jp/statistics/glossary/652.html> 最終確認日二〇一八年二月三日)
- (17) 2つの量的変数間の直線的関連の程度を表す係数で、いわゆる相関係数のことを示す。(参考:「ピアソンの積率相関係数/統計用語集/統計Web」<https://bellcurve.jp/statistics/glossary/1233.html> 最終確認日二〇一八年二月三日)

月三日)

- (18) 『昭和定本日蓮聖人遺文』(立正大学日蓮教学研究所、一九五二年・以下、定本と表記) 八一六頁
- (19) 定本、五一二頁
- (20) 坂本幸男・岩本裕訳注『法華経』上巻(岩波文庫、一九六七年)一一八頁
- (21) 例えば、信仰に関わらずただ耳にするだけの聞き方や、理解しながらの聞き方、また聲唾者の場合など、様々なケースが想定されることを平島盛龍先生から御指摘頂いた。そうした様々な実際の場合について直ちに結論を求めることは筆者の知識並びに能力を超えるため、今後に向けての課題としたい。
- (22) 『大正新脩大藏経』第九卷(二〇二二年) 四六一頁
- (23) 『日蓮宗事典』(東京堂出版、一九八一年) 七四頁
- (24) 『本門法華宗入門』三・教義(本門法華宗学院、二〇〇九年) 五二―五三頁
- (25) 株橋日涌著『観心本尊鈔講義』下巻(法華宗宗務院、一九八七年) 一一七八頁
- (26) 同、一一七九頁
- (27) 中村元著『佛教語大辞典』縮刷版(東京書籍、一九八七年) 九三四頁
- (28) 同、一〇―一一頁
- (29) 同、九頁
- (30) 株橋日涌著『観心本尊鈔講義』下巻(前掲) 一一七六頁
- (31) 同、一一七七頁
- (32) 『日蓮宗事典』(前掲) 五九頁
- (33) 坂本幸男・岩本裕訳注『法華経』下巻(前掲) 一四〇―一四二頁
- (34) 『大正新脩大藏経』第十二卷(前掲) 四二〇頁

街頭唱題行の意義に関する研究

- (35) 『大正新脩大藏經』第三四卷(前掲) 一四二頁
- (36) 『大正新脩大藏經』第三三卷(前掲) 七九二頁
- (37) 定本、二四二頁
- (38) 株橋日涌著『観心本尊鈔講義』下卷(前掲) 一二五四頁
- (39) 同、一二六七頁
- (40) 定本、二六〇頁
- (41) 定本、八一六頁
- (42) 定本、一四二六頁
- (43) 定本、三九四頁
- (44) 定本、一四二四頁
- (45) 北川順也著『お寺が救う無縁社会』(ルネッサンス新書、二〇一一年) 二二一頁

【謝辞】

本稿は、興隆学林専門学校に提出した平成二十七年卒業論文を加筆修正したものです。卒業論文の作成時には主査の株橋隆真先生、副査の平島盛龍先生に御指導頂きました。また加筆修正の際には、改めて平島盛龍先生に御指導を頂き、今後の勉強課題についてもご指摘を賜りました。また大平寛龍先生には、加筆修正の際に、色々と相談にのって頂きました。並びに、本研究においては、南河内郡加納地区の法華寺様並びに御協力頂いた皆様、また大阪市東三區、宮原地区でアンケートに御協力頂いた皆様に大変御世話になりました。ここに記して感謝の意を表します。